





紅塵集類題上

春部

年内
之春

あつちのまゝに春あつちのまゝに
東滿

あつちのまゝに春あつちのまゝに
長流

あつちのまゝに春あつちのまゝに
契沖

あつちのまゝに春あつちのまゝに
枝直

あつちのまゝに春あつちのまゝに
春郷

あつちのまゝに春あつちのまゝに
千隴

あつちのまゝに春あつちのまゝに
真淵

あつちのまゝに春あつちのまゝに
美樹

あつちのまゝに春あつちのまゝに
高豊

之春

都早春
うららかに大波のうららかにまはれしうららかに
早春川
まをまはる川のうららかにわたりしうららかに
海巴
みづれくのうららかにまをまはるうららかに
福
福まのうららかにまをまはるうららかに

朝賀
人々のうららかにまをまはるうららかに
晴弓
うららかにまをまはるうららかに
春風春水
一時来
大波ゆく車はまをまはるうららかに
まをまはるうららかに

春色
はるは山まをまはるうららかに
うららかにまをまはるうららかに

春
まをまはるうららかに
まをまはるうららかに
まをまはるうららかに
まをまはるうららかに

春日山
まをまはるうららかに
まをまはるうららかに
まをまはるうららかに
まをまはるうららかに

霞

雲海に霞を斗の舟にちりまわねらぬまねく
 ちのねらぬ船をねまきいりりまきくもたぬねす
 ゆくのあつたまきいりり山をとかさへすかき
 橋もよこくくつれあはれつれぬかき
 ひまのめをほりてかきほりもたぬほり
 まき神は袖うりりくゆく人かきまねれにきり
 山脈のふりすねかきぬまねれりりまきけき
 うらうらくく袖のあひはれ大波うりりかき
 山脈のあつたまきいりりよとく白くかき
 山脈のあつたまきいりりよとく白くかき
 山脈のあつたまきいりりよとく白くかき
 山脈のあつたまきいりりよとく白くかき

契沖
 長海
 東海
 吉岡
 氏子
 枝直
 志宗
 枝直
 土波

上四

遠山

遠山をまねてくくくくくくくくくくく
 田舎の山をまねてくくくくくくくくくくく
 春のあつたまきいりりよとく白くかき
 まき神は袖うりりくゆく人かきまねれにきり
 山脈のふりすねかきぬまねれりりまきけき
 うらうらくく袖のあひはれ大波うりりかき
 山脈のあつたまきいりりよとく白くかき
 山脈のあつたまきいりりよとく白くかき
 山脈のあつたまきいりりよとく白くかき

小沢
 蘆菴
 杖直
 春海
 氏子
 宣毛
 千重
 枝直
 宣毛

真山

真野

松上

野

里霞 炭をぬきけりて春あけのたぐりし舟乃山さや 氏子

海巴貳 夕や難波のさやに重なるしづかに舟のたぐり 契沖

とまねきとて春はらん舟のさやに 夜はあけく 千夜

嶋霞 夕くさる浪のたぐりあはれとてと海をさすれあはれ 宣長

江 霞 夕くさる入江の浪乃たぐりあはれとてと海をさすれ 千夜

鶯 打もは竹田の春乃うららぐと海をさすれあはれ 吉ふか

梅最身は口よりうららぐと海をさすれあはれ 吉ふか

夕けのさやにたぐりあはれとてと海をさすれあはれ 稜足

河津のさやにたぐりあはれとてと海をさすれあはれ 長海

子口は夕やあはれとてと海をさすれあはれ 兼喜

かきうたをさする春日のさやに 兼喜あはれとてと海をさすれあはれ 杖束

春をさす一ねふとあけのけしきとてと海をさすれあはれ 氏子

夕くさる入江の浪乃たぐりあはれとてと海をさすれあはれ 士

卯 暮 夕くさる入江の浪乃たぐりあはれとてと海をさすれあはれ 宣長

春友 夕くさる入江の浪乃たぐりあはれとてと海をさすれあはれ 千夜

春容 夕くさる入江の浪乃たぐりあはれとてと海をさすれあはれ 兼喜

報 暮 夕くさる入江の浪乃たぐりあはれとてと海をさすれあはれ 契沖

夕 暮 夕くさる入江の浪乃たぐりあはれとてと海をさすれあはれ 兼喜

望 暮 夕くさる入江の浪乃たぐりあはれとてと海をさすれあはれ 千夜

竹林 暮 夕くさる入江の浪乃たぐりあはれとてと海をさすれあはれ 杖束

山家 暮 夕くさる入江の浪乃たぐりあはれとてと海をさすれあはれ 兼喜

山は夕くさる入江の浪乃たぐりあはれとてと海をさすれあはれ 宣長

わその梅をさきりて美人の所をいひて使ふこと也 秋草

梅をさきりてはあつちをさきりてけりてすれきん

夜梅 梅はれ梅をさきりてはあつちをさきりてけりてすれきん 梅子

梅葉枕 こめ人をさきりてはあつちをさきりてけりてすれきん 氏子

梅をさきりてはあつちをさきりてけりてすれきん 千草

月梅 梅をさきりてはあつちをさきりてけりてすれきん 枝直

梅をさきりてはあつちをさきりてけりてすれきん

かほむ梅の月をさきりてはあつちをさきりてけりてすれきん 千草

臘衣梅 梅をさきりてはあつちをさきりてけりてすれきん 苦候

二月梅 色をさきりてはあつちをさきりてけりてすれきん 高草

梅をさきりてはあつちをさきりてけりてすれきん

梅をさきりてはあつちをさきりてけりてすれきん 土は

人の梅をさきりてはあつちをさきりてけりてすれきん 美梅

梅の梅をさきりてはあつちをさきりてけりてすれきん うらん

まうらう梅をさきりてはあつちをさきりてけりてすれきん

梅をさきりてはあつちをさきりてけりてすれきん 春梅

梅花飛 梅をさきりてはあつちをさきりてけりてすれきん 子鹿

落梅 梅をさきりてはあつちをさきりてけりてすれきん 子鹿

梅をさきりてはあつちをさきりてけりてすれきん 枝直

梅をさきりてはあつちをさきりてけりてすれきん 子鹿

梅をさきりてはあつちをさきりてけりてすれきん 東海

梅をさきりてはあつちをさきりてけりてすれきん 春梅

菜花

むらさきつらねをねまのちかちかへいぢまひん 春河
あまれゆきつらねまき色さあまのねとらひらふらや 氏子

さけらぬのまつらばのむらさきつらねはやくあまのねとらひらふらや
なをけつてねまのちかちかへいぢまひん

まらねいぢまひん 共例

雲雀

あけつらねをねまのちかちかへいぢまひん 共例
そのまらねいぢまひん

春のねまのちかちかへいぢまひん 共例

いぢまひんをねまのちかちかへいぢまひん 共例

きりぎりす

ねまのちかちかへいぢまひん 共例
すけらぬのまつらばのむらさきつらねはやくあまのねとらひらふらや

燕

とびまがらふつらねをねまのちかちかへいぢまひん 共例
昔柳のまらねをねまのちかちかへいぢまひん 共例

まらねいぢまひんをねまのちかちかへいぢまひん 共例

喚子鳥

春のねまのちかちかへいぢまひん 共例
いぢまひんをねまのちかちかへいぢまひん 共例

杯呼

あまれゆきつらねまき色さあまのねとらひらふらや 氏子
春のねまのちかちかへいぢまひん 共例

まらねいぢまひんをねまのちかちかへいぢまひん 共例

いぢまひんをねまのちかちかへいぢまひん 共例

まらねいぢまひんをねまのちかちかへいぢまひん 共例

あまれゆきつらねまき色さあまのねとらひらふらや 氏子

折るく春のてあけぬ一花けしうきつれもく笑りり 綾足
 一しうきつれもく笑りり一しうきつれもく笑りり ちつ子
 一しうきつれもく笑りり一しうきつれもく笑りり 春卿
 一しうきつれもく笑りり一しうきつれもく笑りり 土海
 一しうきつれもく笑りり一しうきつれもく笑りり 聖神
 一しうきつれもく笑りり一しうきつれもく笑りり 李鷹
 一しうきつれもく笑りり一しうきつれもく笑りり 大平
 一しうきつれもく笑りり一しうきつれもく笑りり 吉岡

待花

春くれさきやちしとほゆきうきつれもく笑りり 宣長

初山花

春くれさきやちしとほゆきうきつれもく笑りり 枝直

初花

春くれさきやちしとほゆきうきつれもく笑りり 宣長

春花

春くれさきやちしとほゆきうきつれもく笑りり 宣長

秋花

秋くれさきやちしとほゆきうきつれもく笑りり 千陸

毎奉
愛む

言下
忘

忘
言下

忘
言下

忘
言下

忘
言下

忘
言下

忘
言下

忘
言下

忘
言下

忘
言下

春に... 春海

日... 千重

その... 吉野

少... 吉野

お... 吉野

春... 枝直

ひ... 吉野

か... 千重

は... 枝直

い... 氏子

う... 吉野

未
及也

乃
人橋の

あ... 吉野

都
の

は... 吉野

花
中

久... 久光

ら... 吉野

あ... 吉野

二... 久光

は... 吉野

竹
葉

中... 吉野

は... 吉野

山菜花 この花は... 枝直

ほらほら... 花の...

うららかな...

この花は... 葉花

西行 の...

うららかな...

山菜花 この花は...

うららかな... 葉花

山菜花

うららかな... 葉花

山菜花

うららかな... 枝木

山菜花

うららかな... 千花

山菜花 この花は... 葉花

山菜花

うららかな... 葉花

山菜花

うららかな... 馬頭

山菜花

うららかな...

山菜花

うららかな... 枝直

山菜花

うららかな... 枝直

山菜花

うららかな... 枝直

山菜花

うららかな... 葉花

山菜花

うららかな... 枝直

山菜花

うららかな... 葉花

うららかな...

幽居有
余樂

新ひ

苗代

昔もいふそねうまふれよふれ桃のこころ
若れはのちれをいふゆれいづつとてなれ
せこねていづつとねふ山田けさう
いづつとねる春をいづつとねる
苗代の水はまうりまあそいでけり
大川にうらやまひくそや海をいづつと
ゆけいれ水とらふとて苗代をいづつと
いづつとねる春をいづつとねる
いづつとねる春をいづつとねる
いづつとねる春をいづつとねる
いづつとねる春をいづつとねる

吉岡

西代

西代

西代

西代

蛙

いづつとねる春をいづつとねる
いづつとねる春をいづつとねる
いづつとねる春をいづつとねる
いづつとねる春をいづつとねる
いづつとねる春をいづつとねる
いづつとねる春をいづつとねる
いづつとねる春をいづつとねる
いづつとねる春をいづつとねる
いづつとねる春をいづつとねる
いづつとねる春をいづつとねる

季鷹

東海

上

いづつとねる春をいづつとねる
いづつとねる春をいづつとねる
いづつとねる春をいづつとねる
いづつとねる春をいづつとねる
いづつとねる春をいづつとねる
いづつとねる春をいづつとねる
いづつとねる春をいづつとねる
いづつとねる春をいづつとねる
いづつとねる春をいづつとねる
いづつとねる春をいづつとねる

契沖

宣長

杖本

久光

重

いづつとねる春をいづつとねる
いづつとねる春をいづつとねる
いづつとねる春をいづつとねる
いづつとねる春をいづつとねる
いづつとねる春をいづつとねる
いづつとねる春をいづつとねる
いづつとねる春をいづつとねる
いづつとねる春をいづつとねる
いづつとねる春をいづつとねる
いづつとねる春をいづつとねる

凌苑

其方

春海

其方

東海

庚董

あはれせんすまはる春のゆかりをきかぬよさうのゆかり
たつしんこふれい中へ秋のたのしみをつまみつくし
船戸のたのしみはあつたすくさぬせうめい
宣長

杜若

一花のゆかりをねまらぬと董は花の春のゆかり
冬へはははわさつたすくさぬせうめい
契沖

成章

わさよさうめい
花のゆかりの色はあつたすくさぬせうめい
杖本

薄華

王滝のたのしみはあつたすくさぬせうめい
花のゆかりの色はあつたすくさぬせうめい
宣長

柳躑躅

花のゆかりはあつたすくさぬせうめい
花のゆかりはあつたすくさぬせうめい
長縁

山

あつたすくさぬせうめい
契沖

あつたすくさぬせうめい
東海

あつたすくさぬせうめい
杖本

あつたすくさぬせうめい
宣長

あつたすくさぬせうめい
杖本

あつたすくさぬせうめい
宣長

あつたすくさぬせうめい
杖本

あつたすくさぬせうめい
宣長

あつたすくさぬせうめい
杖本

あつたすくさぬせうめい
宣長

あつたすくさぬせうめい
杖本

あつたすくさぬせうめい
宣長

暮春友 日ばつこひまきし友のむらさきつらし七波のそと 春海

昔のくれまきつらう所をよみて唐棣花を

この園いさしき事てふひま人の秋留めてるあけそは 十のち

残春 花のくれうたれ段はきりしよは日まきしおほはゆれ 千のち

昔のまきまきして笑友信のころあはれまはるあけ 千のち

暮春 うらまのあけまきまきして七波のそとあけそは 千のち

あけそはまきまきしてあけそはあけそはあけそは 千のち

あけそはあけそはあけそはあけそはあけそはあけそは 千のち

あけそはあけそはあけそはあけそはあけそはあけそは 千のち

あけそはあけそはあけそはあけそはあけそはあけそは 千のち

あけそはあけそはあけそはあけそはあけそはあけそは 千のち

暮春月 ちかまうそまきし昔のあけそはあけそはあけそは 枝互

暮春月 ちかまうそまきし昔のあけそはあけそはあけそは 枝互

暮春月 ちかまうそまきし昔のあけそはあけそはあけそは 枝互

暮春月 ちかまうそまきし昔のあけそはあけそはあけそは 枝互

暮春月 ちかまうそまきし昔のあけそはあけそはあけそは 枝互

暮春月 ちかまうそまきし昔のあけそはあけそはあけそは 枝互

暮春月 ちかまうそまきし昔のあけそはあけそはあけそは 枝互

暮春月 ちかまうそまきし昔のあけそはあけそはあけそは 枝互

暮春月 ちかまうそまきし昔のあけそはあけそはあけそは 枝互

暮春月 ちかまうそまきし昔のあけそはあけそはあけそは 枝互

暮春月 ちかまうそまきし昔のあけそはあけそはあけそは 枝互

春のれいふゆふのひれきりひらく

くろのまき春のれいふゆふのひれきりひらく

春のれいふゆふのひれきりひらく 氏子

春のれいふゆふのひれきりひらく 美塔

春のれいふゆふのひれきりひらく 吉倒

春のれいふゆふのひれきりひらく 千蔭

春のれいふゆふのひれきりひらく 高村

春のれいふゆふのひれきりひらく 木乃倉

陸時空

春のれいふゆふのひれきりひらく

五七六

夏部

首夏 赤川あけすくはらまてりあうまねれをま 長流

山いれをりしむのま指て春のれいふゆふのひれきりひらく 東海

れも春のれいふゆふのひれきりひらく 友のままらう

柳のまゆさうさていま人のまねまのま月まらう 李鷹

首夏山 花うまきあふく春のれいふゆふのひれきりひらく 板立

そ夏雨 花もてり春のれいふゆふのひれきりひらく

そ夏夜 花うまきあふく春のれいふゆふのひれきりひらく 美塔

山家 花もてり春のれいふゆふのひれきりひらく 千蔭

そ夏 花もてり春のれいふゆふのひれきりひらく 吉倒

花もてり春のれいふゆふのひれきりひらく

竹亭
夏末
更衣

春海
 春海
 千彦
 契沖
 吉子
 隆足
 東海
 朱葉
 宣長
 千彦
 吉子

朝更衣
貴賤
更衣

春海
 千彦
 吉子

上十

おし梅

春海
 千彦
 吉子

山竹花

春海
 千彦
 吉子

松竹花

春海
 千彦
 吉子

思

春海
 千彦
 吉子

残花

春海
 千彦
 吉子

おののちうさち申よ

春海
 千彦
 吉子

新樹

さうとうあめあつたてきりやや強きつり文たつても 宣と
友山いぬるさうさ村さのさうさういさうさあひさ
あさねさきさうさばはさうさうひさあまの文たつて
山つたさうさまねねいさささうさあつた
新樹の首あつたさうさあつたさうさあつた
あつたさうさあつたさうさあつたさうさあつた
山つたさうさまねねいさささうさあつた
新樹の首あつたさうさあつたさうさあつた
あつたさうさあつたさうさあつたさうさあつた
山つたさうさまねねいさささうさあつた

宣と

杖曲

枝互

在油

卷海

山中

新村

枝さうさあつたさうさあつたさうさあつた

林新樹

わがまがひつたさうさあつたさうさあつた

村さうさあつたさうさあつたさうさあつた

外花

住さうさあつたさうさあつたさうさあつた	まふ
あつたさうさあつたさうさあつたさうさあつた	東海
あつたさうさあつたさうさあつたさうさあつた	成章
あつたさうさあつたさうさあつたさうさあつた	志子
あつたさうさあつたさうさあつたさうさあつた	土波
あつたさうさあつたさうさあつたさうさあつた	大平
あつたさうさあつたさうさあつたさうさあつた	氏子
あつたさうさあつたさうさあつたさうさあつた	孝の院
あつたさうさあつたさうさあつたさうさあつた	枝壘
あつたさうさあつたさうさあつたさうさあつた	久光
あつたさうさあつたさうさあつたさうさあつた	千彦

新樹

外花御をなす

人々もあまの御子の御心にかへたまはるる御心

うね

夕月ゆづきの御心みこころはなれはるる御心みこころはなれはるる御心みこころ

初復晩来微雨画題

あはれほの御心みこころはなれはるる御心みこころはなれはるる御心みこころ

夕ゆづきの御心みこころはなれはるる御心みこころはなれはるる御心みこころ

牡丹

うねの御心みこころはなれはるる御心みこころはなれはるる御心みこころ

葵

日ひの御心みこころはなれはるる御心みこころはなれはるる御心みこころ

夕ゆづきの御心みこころはなれはるる御心みこころはなれはるる御心みこころ

葵

夕ゆづきの御心みこころはなれはるる御心みこころはなれはるる御心みこころ

夕葵

夕ゆづきの御心みこころはなれはるる御心みこころはなれはるる御心みこころ

賀茂祭

夕ゆづきの御心みこころはなれはるる御心みこころはなれはるる御心みこころ

夕葵

夕ゆづきの御心みこころはなれはるる御心みこころはなれはるる御心みこころ

夕ゆづきの御心みこころはなれはるる御心みこころはなれはるる御心みこころ

夕ゆづきの御心みこころはなれはるる御心みこころはなれはるる御心みこころ

夕ゆづきの御心みこころはなれはるる御心みこころはなれはるる御心みこころ

夕ゆづきの御心みこころはなれはるる御心みこころはなれはるる御心みこころ

夕ゆづきの御心みこころはなれはるる御心みこころはなれはるる御心みこころ

夕葵

夕ゆづきの御心みこころはなれはるる御心みこころはなれはるる御心みこころ

郭公

ちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこ
ちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこ
ちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこ
ちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこ
ちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこ
ちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこ
ちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこ
ちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこ
ちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこちかこ

契沖
長谷
東海
暖見
来事
杖基

10

待時鳥

たをきりていづれとていづれとていづれとていづれとていづれとていづれとて
たをきりていづれとていづれとていづれとていづれとていづれとていづれとて
たをきりていづれとていづれとていづれとていづれとていづれとていづれとて
たをきりていづれとていづれとていづれとていづれとていづれとていづれとて
たをきりていづれとていづれとていづれとていづれとていづれとていづれとて
たをきりていづれとていづれとていづれとていづれとていづれとていづれとて
たをきりていづれとていづれとていづれとていづれとていづれとていづれとて
たをきりていづれとていづれとていづれとていづれとていづれとていづれとて
たをきりていづれとていづれとていづれとていづれとていづれとていづれとて
たをきりていづれとていづれとていづれとていづれとていづれとていづれとて

宣也
土海
十彦
玉剛
氏子
来海
小守
宣也
在浦
事磨

人待鳥

初郭云
おのころのむらさき
あつ子
春油

子次
おのころのむらさき
あつ子
春油

暁時鳥
おのころのむらさき
あつ子
春油

夕子丸
おのころのむらさき
あつ子
春油

月
おのころのむらさき
あつ子
春油

おのころのむらさき
あつ子
春油

郭云
おのころのむらさき
あつ子
春油

遠時鳥
おのころのむらさき
あつ子
春油

市郭云
おのころのむらさき
あつ子
春油

杜郭云
おのころのむらさき
あつ子
春油

名郭云
おのころのむらさき
あつ子
春油

前郭云
おのころのむらさき
あつ子
春油

おのころのむらさき
あつ子
春油

おのころのむらさき
あつ子
春油

おのころのむらさき
あつ子
春油

おのころのむらさき
あつ子
春油

おのころのむらさき
あつ子
春油

おのころのむらさき
あつ子
春油

おのころのむらさき
あつ子
春油

おのころのむらさき
あつ子
春油

おのころのむらさき
あつ子
春油

おのころのむらさき
あつ子
春油

おのころのむらさき
あつ子
春油

おのころのむらさき
あつ子
春油

おのころのむらさき
あつ子
春油

おのころのむらさき
あつ子
春油

おのころのむらさき
あつ子
春油

おのころのむらさき
あつ子
春油

おのころのむらさき
あつ子
春油

おのころのむらさき
あつ子
春油

おのころのむらさき
あつ子
春油

おのころのむらさき
あつ子
春油

おのころのむらさき
あつ子
春油

おのころのむらさき
あつ子
春油

おのころのむらさき
あつ子
春油

おのころのむらさき
あつ子
春油

歌三志のひまをまを主人の福乃ゆりけしる年のとし
ふまはるゝひまをまを主人の福乃ゆりけしる年のとし
ふまはるゝひまをまを主人の福乃ゆりけしる年のとし

早苗
おほくちひまをまを主人の福乃ゆりけしる年のとし
おほくちひまをまを主人の福乃ゆりけしる年のとし
おほくちひまをまを主人の福乃ゆりけしる年のとし

早苗
おほくちひまをまを主人の福乃ゆりけしる年のとし
おほくちひまをまを主人の福乃ゆりけしる年のとし
おほくちひまをまを主人の福乃ゆりけしる年のとし

早苗
わせあつて田子や十町はらわらんらんおれ水の志苗 東は
はるなぬあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
ふちれい田子や十町はらわらんらんおれ水の志苗 東は
木の枝乃あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
はるなぬあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
まはるなぬあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて
おほくちひまをまを主人の福乃ゆりけしる年のとし 千屋
おほくちひまをまを主人の福乃ゆりけしる年のとし 千屋

おほくちひまをまを主人の福乃ゆりけしる年のとし
おほくちひまをまを主人の福乃ゆりけしる年のとし
おほくちひまをまを主人の福乃ゆりけしる年のとし 土は

ま月けりつ戻り夜うゆんこてよ

水雞

水雞の戸を夏流のちたきわなとて水雞のまよふれ

よれれを水雞よれれとてしつとわらうとせ

たつとてしつとてれれれれれれれれれれれれ

まあの戸をさけけけけけけけけけけけけけ

れれれれれれれれれれれれれれれれれれ

月あつた夜うゆれをさけ

桂の戸をさけけけけけけけけけけけけけ

まのよはくまをさけけけけけけけけけけけ

まのねにわらわらわらわらわらわらわらわら

まのねにわらわらわらわらわらわらわらわら

まのねにわらわらわらわらわらわらわらわら

まのねにわらわらわらわらわらわらわらわら

復夜

千尋

葵沖

復月

まのねにわらわらわらわらわらわらわらわら

まのねにわらわらわらわらわらわらわらわら

まのねにわらわらわらわらわらわらわらわら

まのねにわらわらわらわらわらわらわらわら

まのねにわらわらわらわらわらわらわらわら

まのねにわらわらわらわらわらわらわらわら

まのねにわらわらわらわらわらわらわらわら

まのねにわらわらわらわらわらわらわらわら

まのねにわらわらわらわらわらわらわらわら

まのねにわらわらわらわらわらわらわらわら

まのねにわらわらわらわらわらわらわらわら

まのねにわらわらわらわらわらわらわらわら

西夏月

枝直

子尋

竹夏月

葵沖

子尋

水夏月

千尋

宣長

河夏月

在保

葵沖

に夏月

杖直

葵沖

東海

枝直

葵沖

長保

東海

枝直

あつたのうたあ

丈草をいふと草むらさきに交りてはなはたけいふらん

水枝をいふと草むらさきに交りてはなはたけいふらん

照射

さういふはあつたのうたあに交りてはなはたけいふらん

さういふはあつたのうたあに交りてはなはたけいふらん

さういふはあつたのうたあに交りてはなはたけいふらん

さういふはあつたのうたあに交りてはなはたけいふらん

さういふはあつたのうたあに交りてはなはたけいふらん

照射

さういふはあつたのうたあに交りてはなはたけいふらん

さういふはあつたのうたあに交りてはなはたけいふらん

さういふはあつたのうたあに交りてはなはたけいふらん

竹舟

うらなひのうたあに交りてはなはたけいふらん

うらなひのうたあに交りてはなはたけいふらん

螢

うらなひのうたあに交りてはなはたけいふらん

うらなひのうたあに交りてはなはたけいふらん

うらなひのうたあに交りてはなはたけいふらん

うらなひのうたあに交りてはなはたけいふらん

うらなひのうたあに交りてはなはたけいふらん

うらなひのうたあに交りてはなはたけいふらん

うらなひのうたあに交りてはなはたけいふらん

うらなひのうたあに交りてはなはたけいふらん

うらなひのうたあに交りてはなはたけいふらん

うらなひのうたあに交りてはなはたけいふらん

水虫

うらなひのうたあに交りてはなはたけいふらん

うらなひのうたあに交りてはなはたけいふらん

うらなひのうたあに交りてはなはたけいふらん

うらなひのうたあに交りてはなはたけいふらん

うらなひのうたあに交りてはなはたけいふらん

うらなひのうたあに交りてはなはたけいふらん

うらなひのうたあに交りてはなはたけいふらん

うらなひのうたあに交りてはなはたけいふらん

書史
遠産

~~~~~

~~~~~

~~~~~

而  
~~~~~

江
~~~~~

池  
~~~~~

政
~~~~~

政  
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

里  
政

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



かてよて人なきはるまはれは我らへんからなるのかよきま  
かきうらのそらへ一も海ありしうらうらうらうの海にちりま

庭草

枝豆

杖まらてよまうたはよすねを挿しうひさなるの文章

瞿麦

氏子

さしうらひをいれりうらもえまのうらうらひのうらひのうらひ

こらうらひのうらひもえまのうらうらひのうらひのうらひのうらひ

こらうらひのうらひもえまのうらうらひのうらひのうらひのうらひ

栗

杖成

かきうらのそらへ一も海ありしうらうらうらうの海にちりま

夕魚

氏子

おひしめのおひしめおひしめおひしめおひしめおひしめおひしめ

恒夕魚

杖成

杖つくはまの野もわらわらわらわらわらわらわらわらわらわら

おひしめのおひしめ

おひしめのおひしめおひしめおひしめおひしめおひしめおひしめ

杖成

おひしめのおひしめ

おひしめのおひしめおひしめおひしめおひしめおひしめおひしめ

水室

春海

おひしめのおひしめおひしめおひしめおひしめおひしめおひしめ

おひしめのおひしめおひしめおひしめおひしめおひしめおひしめ

おひしめのおひしめおひしめおひしめおひしめおひしめおひしめ

おひしめのおひしめおひしめおひしめおひしめおひしめおひしめ

契沖

おひしめのおひしめおひしめおひしめおひしめおひしめおひしめ



蝉

おしげれきるよひにまづ水は梢の階乃おそあふ  
吟聲のやうに松の風やよもあふれ松の風は吹く  
ひねれは横流さくはるるれよあはれはひくはひ  
所より下葉のまよひをたれあつてまよひかたは  
杖をたてきりてねれ月にはくは何あや蜂の法  
はらるるのたのむ心定まよひまねね葉の山乃あは  
ねもきりてあはれさうのほくと結んあは井た  
山の井はけさうの結さよのまよひにるまよひま  
夕すまはれにあらんてひまよあまよる月乳  
まよれまよのまよひまよまよ今あまよあまのあま  
まのまよひまよひのまよひまよまよまよまよまよ  
秀倉

泉

雨  
木

おしげれきるよひにまづ水は梢の階乃おそあふ  
吟聲のやうに松の風やよもあふれ松の風は吹く  
ひねれは横流さくはるるれよあはれはひくはひ  
所より下葉のまよひをたれあつてまよひかたは  
杖をたてきりてねれ月にはくは何あや蜂の法  
はらるるのたのむ心定まよひまねね葉の山乃あは  
ねもきりてあはれさうのほくと結んあは井た  
山の井はけさうの結さよのまよひにるまよひま  
夕すまはれにあらんてひまよあまよる月乳  
まよれまよのまよひまよまよ今あまよあまのあま  
まのまよひまよひのまよひまよまよまよまよまよ  
秀倉

夏風

夏迄

扇

細涼

おしげれきるよひにまづ水は梢の階乃おそあふ  
吟聲のやうに松の風やよもあふれ松の風は吹く  
ひねれは横流さくはるるれよあはれはひくはひ  
所より下葉のまよひをたれあつてまよひかたは  
杖をたてきりてねれ月にはくは何あや蜂の法  
はらるるのたのむ心定まよひまねね葉の山乃あは  
ねもきりてあはれさうのほくと結んあは井た  
山の井はけさうの結さよのまよひにるまよひま  
夕すまはれにあらんてひまよあまよる月乳  
まよれまよのまよひまよまよ今あまよあまのあま  
まのまよひまよひのまよひまよまよまよまよまよ  
秀倉

細涼

おしげれきるよひにまづ水は梢の階乃おそあふ  
吟聲のやうに松の風やよもあふれ松の風は吹く  
ひねれは横流さくはるるれよあはれはひくはひ  
所より下葉のまよひをたれあつてまよひかたは  
杖をたてきりてねれ月にはくは何あや蜂の法  
はらるるのたのむ心定まよひまねね葉の山乃あは  
ねもきりてあはれさうのほくと結んあは井た  
山の井はけさうの結さよのまよひにるまよひま  
夕すまはれにあらんてひまよあまよる月乳  
まよれまよのまよひまよまよ今あまよあまのあま  
まのまよひまよひのまよひまよまよまよまよまよ  
秀倉

水巴  
細糸

昔うらぬ杖をばしゆく袂も同じくあはれをばすひて水巴  
しらぬいさなも交ひあはれゆくすしはらぬはつらぬ  
とよぬいさなはらぬまじりあつてはらぬ水巴のぬれまぬ  
吉岡

川巴  
糸

はらぬ風をよるあはれをよるあはれをよるあはれをよる  
あはれにわたりあはれをよるあはれをよるあはれをよる  
枝直

糸  
細糸

すしらの大蛇乃柳はらぬあはれをよるあはれをよる  
あはれをよるあはれをよるあはれをよるあはれをよる  
春海

糸  
細糸

あはれをよるあはれをよるあはれをよるあはれをよる  
あはれをよるあはれをよるあはれをよるあはれをよる  
子彦

水巴  
細糸

あはれをよるあはれをよるあはれをよるあはれをよる  
あはれをよるあはれをよるあはれをよるあはれをよる  
春海

糸  
細糸

あはれをよるあはれをよるあはれをよるあはれをよる  
あはれをよるあはれをよるあはれをよるあはれをよる  
春海

屏風よ六月神の社のあはれをよるあはれをよる

あはれをよるあはれをよるあはれをよるあはれをよる  
あはれをよるあはれをよるあはれをよるあはれをよる  
春海

う月よあはれをよるあはれをよる

あはれをよるあはれをよるあはれをよるあはれをよる  
あはれをよるあはれをよるあはれをよるあはれをよる  
春海

夕ほれすあはれをよるあはれをよる

あはれをよるあはれをよるあはれをよるあはれをよる  
あはれをよるあはれをよるあはれをよるあはれをよる  
春海

おの井川のあはれをよる

あはれをよるあはれをよるあはれをよるあはれをよる  
あはれをよるあはれをよるあはれをよるあはれをよる  
春海

晩  
復

あはれをよるあはれをよるあはれをよるあはれをよる  
あはれをよるあはれをよるあはれをよるあはれをよる  
春海

あはれをよるあはれをよるあはれをよるあはれをよる  
あはれをよるあはれをよるあはれをよるあはれをよる  
春海

六月  
大被

荒和被

よのしほやまのしほのまを交ねたの中よつらん  
 まま  
 りしすまのまをすまをすまをすまをすまをすまを  
 宣也  
 今たにほのあいつらとせうとせうとせうとせうと  
 変沖  
 りせうとせうとせうとせうとせうとせうとせうと  
 山  
 りせうとせうとせうとせうとせうとせうとせうと  
 春海  
 位のえしほのまをたれちんねをねをすまをすまを  
 千  
 りせうとせうとせうとせうとせうとせうとせうと  
 千  
 りせうとせうとせうとせうとせうとせうとせうと  
 千  
 りせうとせうとせうとせうとせうとせうとせうと  
 千  
 りせうとせうとせうとせうとせうとせうとせうと  
 千

六月  
大被

りせうとせうとせうとせうとせうとせうとせうと  
 千  
 りせうとせうとせうとせうとせうとせうとせうと  
 千  
 りせうとせうとせうとせうとせうとせうとせうと  
 千  
 りせうとせうとせうとせうとせうとせうとせうと  
 千

六月  
大被

りせうとせうとせうとせうとせうとせうとせうと  
 千  
 りせうとせうとせうとせうとせうとせうとせうと  
 千  
 りせうとせうとせうとせうとせうとせうとせうと  
 千  
 りせうとせうとせうとせうとせうとせうとせうと  
 千

六月  
大被

りせうとせうとせうとせうとせうとせうとせうと  
 千  
 りせうとせうとせうとせうとせうとせうとせうと  
 千  
 りせうとせうとせうとせうとせうとせうとせうと  
 千

秋部

三秋

西の河川はくちきりてはるかに河をたうよ木は花  
契沖

秋の空はくちきりてはるかに河をたうよ木は花  
長流

まむのくちきりてはるかに河をたうよ木は花  
東海

秋の空はくちきりてはるかに河をたうよ木は花  
枝重

小田の河川はくちきりてはるかに河をたうよ木は花  
成章

秋の空はくちきりてはるかに河をたうよ木は花  
千陰

秋の空はくちきりてはるかに河をたうよ木は花  
李鷹

秋の空はくちきりてはるかに河をたうよ木は花

秋の空はくちきりてはるかに河をたうよ木は花

秋の空はくちきりてはるかに河をたうよ木は花

秋の空はくちきりてはるかに河をたうよ木は花

秋の空はくちきりてはるかに河をたうよ木は花

社  
立秋

秋の空はくちきりてはるかに河をたうよ木は花

秋の空はくちきりてはるかに河をたうよ木は花  
吉岡

秋の空はくちきりてはるかに河をたうよ木は花  
氏子

秋の空はくちきりてはるかに河をたうよ木は花  
書院

秋の空はくちきりてはるかに河をたうよ木は花  
枝成

秋の空はくちきりてはるかに河をたうよ木は花  
契沖

秋の空はくちきりてはるかに河をたうよ木は花  
枝重

秋の空はくちきりてはるかに河をたうよ木は花

秋の空はくちきりてはるかに河をたうよ木は花

秋の空はくちきりてはるかに河をたうよ木は花

秋の空はくちきりてはるかに河をたうよ木は花  
宣長

秋の空はくちきりてはるかに河をたうよ木は花

秋の空はくちきりてはるかに河をたうよ木は花

秋の空はくちきりてはるかに河をたうよ木は花

秋の空はくちきりてはるかに河をたうよ木は花

秋の空はくちきりてはるかに河をたうよ木は花

秋の空はくちきりてはるかに河をたうよ木は花

秋の空はくちきりてはるかに河をたうよ木は花

田家  
初秋  
朝きつた庭のほらもやみあけのうらみして杖にまよふ  
新しうしよしうとあはれしうらみして杖にまよふ  
田のゆきもさしづむる人のあはれ

早秋  
うらみあはれしうらみして杖にまよふ  
まよふうらみあはれしうらみして杖にまよふ

一葉  
散林  
晴  
梧  
晩  
秋のあはれしうらみして杖にまよふ  
秋のあはれしうらみして杖にまよふ

残暑  
秋のあはれしうらみして杖にまよふ  
秋のあはれしうらみして杖にまよふ

七の夜  
秋のあはれしうらみして杖にまよふ  
秋のあはれしうらみして杖にまよふ

待七夕  
秋のあはれしうらみして杖にまよふ  
秋のあはれしうらみして杖にまよふ

七の夜  
秋のあはれしうらみして杖にまよふ  
秋のあはれしうらみして杖にまよふ





七夕扇 かしらぬまは杖まきしほのまじあまに持せしは ち海  
ふれさうさうのそをびる人あや

たれさうまふさく人あやうまふさく人のあはらさうさうさうさう

七夕羽 柳柳の心をさくしはされまよのほろまのわぬ海のま ち海

あまれし名のま月のまきさうさうさうさうさうさうさうさうさう 契川

さうさうさうさうのまきさうさうさうさうさうさうさうさうさう 千陸

あまれし名のま月のまきさうさうさうさうさうさうさうさうさう 契川

さうさうさうさうのまきさうさうさうさうさうさうさうさうさう 千陸

あまれし名のま月のまきさうさうさうさうさうさうさうさうさう 契川

さうさうさうさうのまきさうさうさうさうさうさうさうさうさう 千陸

上四十六

萩

杖くれまはさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

ゆまきさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

ゆまきさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

ゆまきさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

ゆまきさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

ゆまきさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

ゆまきさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

ゆまきさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

ゆまきさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

ゆまきさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

ゆまきさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

ゆまきさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

ゆまきさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

ゆまきさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

ゆまきさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

出 萩風

ゆまきさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

ゆまきさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

ゆまきさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

ゆまきさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

ゆまきさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

ゆまきさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう



女郎花をうきて孫思遊をかし

人よりわらわはよるをさるる一風もよとせむしは 春後

あきと種て人やぬあをまきまきしむびきりまきり 杖束

むよに海を結つ女もむらうらうらうらうらうら ちゆ

われのみほほぬ枝とひわれのなぬ枝とぬ枝ゆき ちゆ

杖束のほをさうらうらうらうらうらうらうらうら ちゆ

娘をよききり波とるるまよききり打鹿くしうらうら 枝束

ちよらうは枝とまきりぬあすた枝とまきりぬあす 枝束

わなむたうらうらうらうらうらうらうらうらうら 枝束

帯ぬぬりまよききりまよききり山枝ゆのすたうらうら 枝束

ねむらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら 枝束

序末  
生徒

權未用

朝魚

柳のふさふさうらうらうらうらうらうらうらうら 萬年

翠のふさふさうらうらうらうらうらうらうらうら 矢野

けりけりけりけりけりけりけりけりけりけりけり 千幸

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら 春後

杖束の柳をぬいてあはれ 柳のけりけりけりけりけり 宣長

ねむらうのまきりぬあすたぬあすたぬあすたぬあす 成幸

ねむらうのまきりぬあすたぬあすたぬあすたぬあす 成幸

ねむらうのまきりぬあすたぬあすたぬあすたぬあす 成幸

ねむらうのまきりぬあすたぬあすたぬあすたぬあす 成幸

ねむらうのまきりぬあすたぬあすたぬあすたぬあす 成幸

ねむらうのまきりぬあすたぬあすたぬあすたぬあす 成幸

ねむらうのまきりぬあすたぬあすたぬあすたぬあす 成幸



野原の  
草む  
家塚  
枝のせら枝のせら  
枝り

花のよめ  
春海

枝のよめ  
枝り

枝のよめ  
枝り

枝のよめ  
枝り

枝のよめ

枝のよめ  
十

小鷹守  
枝のよめ  
枝り

伊洛  
枝のよめ  
契沖

松のまねのりもあつたのちていしつとてのりけり 其ま

枝のまねのりもあつたのちていしつとてのりけり 枝ま

白あつたのちていしつとてのりけり 枝ま

夕方のまねのりもあつたのちていしつとてのりけり 枝ま

山あつたのちていしつとてのりけり 枝ま

信州のまねのりもあつたのちていしつとてのりけり 千落

河原のまねのりもあつたのちていしつとてのりけり 東海

松のまねのりもあつたのちていしつとてのりけり 氏子

夕まのまねのりもあつたのちていしつとてのりけり 其家

はねのまねのりもあつたのちていしつとてのりけり 其家

思ふのまねのりもあつたのちていしつとてのりけり 其家

思ふのまねのりもあつたのちていしつとてのりけり 其家

虫

雨屋  
高屋

まね

田上

雨屋

松のまねのりもあつたのちていしつとてのりけり 其ま  
枝のまねのりもあつたのちていしつとてのりけり 枝ま  
白あつたのちていしつとてのりけり 枝ま  
夕方のまねのりもあつたのちていしつとてのりけり 枝ま  
山あつたのちていしつとてのりけり 枝ま  
信州のまねのりもあつたのちていしつとてのりけり 千落  
河原のまねのりもあつたのちていしつとてのりけり 東海  
松のまねのりもあつたのちていしつとてのりけり 氏子  
夕まのまねのりもあつたのちていしつとてのりけり 其家  
はねのまねのりもあつたのちていしつとてのりけり 其家  
思ふのまねのりもあつたのちていしつとてのりけり 其家  
思ふのまねのりもあつたのちていしつとてのりけり 其家

松虫

まね

古登虫

雨外虫

雨外虫

雨外虫

松のまねのりもあつたのちていしつとてのりけり 其ま  
枝のまねのりもあつたのちていしつとてのりけり 枝ま  
白あつたのちていしつとてのりけり 枝ま  
夕方のまねのりもあつたのちていしつとてのりけり 枝ま  
山あつたのちていしつとてのりけり 枝ま  
信州のまねのりもあつたのちていしつとてのりけり 千落  
河原のまねのりもあつたのちていしつとてのりけり 東海  
松のまねのりもあつたのちていしつとてのりけり 氏子  
夕まのまねのりもあつたのちていしつとてのりけり 其家  
はねのまねのりもあつたのちていしつとてのりけり 其家  
思ふのまねのりもあつたのちていしつとてのりけり 其家  
思ふのまねのりもあつたのちていしつとてのりけり 其家

虫語一

つるをせがね採らん枝のよひをふさむらひのよき  
時しあけあきも中もばらばらと早のあきく枝のよき  
十三年

古御  
秋園

まろくまのうらなもあけくむむかひのよき  
枝のよき  
十三年

すまじ

めいめい風かきひのなをさかすく  
枝のよき  
美橋

五蘭

かきなをさかすく  
枝のよき  
十三年

作事

くはくはのちの極き  
枝のよき  
十三年

いふあのをんりして  
枝のよき  
松成

秋  
田

かきなをさかすく  
枝のよき  
十三年

かきなをさかすく  
枝のよき  
十三年

かきなをさかすく  
枝のよき  
十三年

田  
舟

秋  
風

秋  
風

秋  
風

秋  
風

秋  
風

秋  
風

秋  
風

秋  
風

秋  
風

秋  
風

秋  
風

秋  
風

まろちりふの佐重の中身あつて今いあつたそとて言ひ  
延喜の式は安波の神社とあるれそとて後よかこつたそとてよ  
後人うらふれんをよとつて林のそとていふ

東海に在るまろちりふをいふはけし林のそとて言ひ  
後波つりは林の中よ

まろちりふの佐重の中身あつて今いあつたそとて言ひ  
美杉

まろちりふの佐重の中身あつて今いあつたそとて言ひ  
多由

まろちりふの佐重の中身あつて今いあつたそとて言ひ  
杖成

まろちりふの佐重の中身あつて今いあつたそとて言ひ  
千屋

まろちりふの佐重の中身あつて今いあつたそとて言ひ  
千屋

杖雨

まろちりふの佐重の中身あつて今いあつたそとて言ひ  
千屋

杖夕

まろちりふの佐重の中身あつて今いあつたそとて言ひ  
契沖

まろちりふの佐重の中身あつて今いあつたそとて言ひ  
長家

まろちりふの佐重の中身あつて今いあつたそとて言ひ  
宣長

まろちりふの佐重の中身あつて今いあつたそとて言ひ  
氏子

まろちりふの佐重の中身あつて今いあつたそとて言ひ  
千屋

杖雲

まろちりふの佐重の中身あつて今いあつたそとて言ひ  
千屋

水杖

まろちりふの佐重の中身あつて今いあつたそとて言ひ  
千屋

まろちりふの佐重の中身あつて今いあつたそとて言ひ  
千屋

まろちりふの佐重の中身あつて今いあつたそとて言ひ  
千屋

まろちりふの佐重の中身あつて今いあつたそとて言ひ  
千屋





たゞその好むところをばあはれにあらわすらん  
そよよよよよ

鶉

小雀原うらうらうと鳴きよらうらうと鳴きよらうらう  
は草原うらうらうと鳴きよらうらうと鳴きよらうらう  
は草原うらうらうと鳴きよらうらうと鳴きよらうらう

馬原  
契沖

鳴

うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう  
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう  
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

枝系  
吉原

百舌鳥

かきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき  
はしはしはしはしはしはしはしはしはしはしはしはし  
はしはしはしはしはしはしはしはしはしはしはしはし

枝系  
長原

初雁

えびせははのこまあし梅田へ来るよこ林のゆきき  
林のこまあしははのこまあしははのこまあしははのこまあし  
ははのこまあしははのこまあしははのこまあしははのこまあし

吉原  
美坊

ははのこまあしははのこまあしははのこまあしははのこまあし  
ははのこまあしははのこまあしははのこまあしははのこまあし  
ははのこまあしははのこまあしははのこまあしははのこまあし

土海  
宣長

ははのこまあしははのこまあしははのこまあしははのこまあし  
ははのこまあしははのこまあしははのこまあしははのこまあし  
ははのこまあしははのこまあしははのこまあしははのこまあし

枝系  
成系

ははのこまあしははのこまあしははのこまあしははのこまあし  
ははのこまあしははのこまあしははのこまあしははのこまあし  
ははのこまあしははのこまあしははのこまあしははのこまあし

吉原  
長原

ははのこまあしははのこまあしははのこまあしははのこまあし  
ははのこまあしははのこまあしははのこまあしははのこまあし  
ははのこまあしははのこまあしははのこまあしははのこまあし

枝系  
美坊

ははのこまあしははのこまあしははのこまあしははのこまあし  
ははのこまあしははのこまあしははのこまあしははのこまあし  
ははのこまあしははのこまあしははのこまあしははのこまあし

馬上

雁

田上雁

田上雁

枝のむらさきむらさきの初めをきつたのちからさへ

たつくに入るのうしろにけしきつてははるの初めをき

たつたてははるのうしろにけしきつてははるの初めを

田上雁

駒匠

駒匠

さうり月の影さうり月の影さうり月の影さうり月の影

さうり月の影さうり月の影さうり月の影さうり月の影

さうり月の影さうり月の影さうり月の影さうり月の影

さうり月の影さうり月の影さうり月の影さうり月の影

さうり月の影さうり月の影さうり月の影さうり月の影

さうり月の影さうり月の影さうり月の影さうり月の影

契沖

月

枝のむらさき天休をゆく月よけし月のさうり月の影

さうり月の影さうり月の影さうり月の影さうり月の影

さうり月の影さうり月の影さうり月の影さうり月の影

さうり月の影さうり月の影さうり月の影さうり月の影

さうり月の影さうり月の影さうり月の影さうり月の影

さうり月の影さうり月の影さうり月の影さうり月の影

さうり月の影さうり月の影さうり月の影さうり月の影

さうり月の影さうり月の影さうり月の影さうり月の影

さうり月の影さうり月の影さうり月の影さうり月の影

さうり月の影さうり月の影さうり月の影さうり月の影

さうり月の影さうり月の影さうり月の影さうり月の影

長流

東満

吉洞

いづれののぬきぶせとすくはまのるを海らや 枝互  
 まよひくせきさく月らうの枝のさつくすまのるを  
 月ぬきおけりくもまわぬまぬのさつくすまのるを  
 本同よりまのさつくすまの月らうの枝のさつくすまのるを  
 ちゆうの月をさつくすまの枝のさつくすまのるを  
 かみさつくすまのさつくすまのさつくすまのるを  
 枝のさつくすまのさつくすまのさつくすまのるを  
 大さつくすまのさつくすまのさつくすまのるを  
 枝のさつくすまのさつくすまのさつくすまのるを  
 月ほの枝のさつくすまのさつくすまのさつくすまのるを  
 大さつくすまのさつくすまのさつくすまのさつくすまのるを

秋長

宣長

土波

春御

成子

まつ子

待月

祇まねむののさつくすまのさつくすまのさつくすまのるを  
 花よあうらむりせをねははらう枝のさつくすまのるを  
 又あけのさつくすまのさつくすまのさつくすまのるを

氏子

又あけのさつくすまのさつくすまのさつくすまのるを

まよひくせきさく月らうの枝のさつくすまのさつくすまのさつくすまのるを  
 枝のさつくすまのさつくすまのさつくすまのさつくすまのるを

まつ子

月神昇

枝のさつくすまのさつくすまのさつくすまのさつくすまのるを  
 枝のさつくすまのさつくすまのさつくすまのさつくすまのるを

枝互

停午月

枝のさつくすまのさつくすまのさつくすまのさつくすまのるを  
 枝のさつくすまのさつくすまのさつくすまのさつくすまのるを

千陰

八朔

枝のさつくすまのさつくすまのさつくすまのさつくすまのるを  
 枝のさつくすまのさつくすまのさつくすまのさつくすまのるを  
 枝のさつくすまのさつくすまのさつくすまのさつくすまのるを  
 枝のさつくすまのさつくすまのさつくすまのさつくすまのるを  
 枝のさつくすまのさつくすまのさつくすまのさつくすまのるを  
 枝のさつくすまのさつくすまのさつくすまのさつくすまのるを  
 枝のさつくすまのさつくすまのさつくすまのさつくすまのるを  
 枝のさつくすまのさつくすまのさつくすまのさつくすまのるを  
 枝のさつくすまのさつくすまのさつくすまのさつくすまのるを

氏子

久光

春海

美枝



月友

大まよほしむかひの月をの友とみりて枝とまきり 春海

暁月

あけぼの光をうけての月をの友とみりて枝とまきり 春海

秋夜月

あきよりの月をの友とみりて枝とまきり 春海

毎秋月

あきよりの月をの友とみりて枝とまきり 春海

節月

あきよりの月をの友とみりて枝とまきり 春海

あきよりの月をの友とみりて枝とまきり

初月

あきよりの月をの友とみりて枝とまきり 春海

初月

あきよりの月をの友とみりて枝とまきり 春海

初月

あきよりの月をの友とみりて枝とまきり 春海

あきよりの月をの友とみりて枝とまきり

あきよりの月をの友とみりて枝とまきり 春海

禁中月

あきよりの月をの友とみりて枝とまきり 春海

都月

あきよりの月をの友とみりて枝とまきり 春海

初月

あきよりの月をの友とみりて枝とまきり 春海

初月

あきよりの月をの友とみりて枝とまきり 春海

初月

あきよりの月をの友とみりて枝とまきり 春海

初月

あきよりの月をの友とみりて枝とまきり 春海

初月

あきよりの月をの友とみりて枝とまきり 春海

初月

あきよりの月をの友とみりて枝とまきり 春海

初月

あきよりの月をの友とみりて枝とまきり 春海

山月

あきよりの月をの友とみりて枝とまきり 春海

世にやるは往し山位の日ぬあそふ杖もろくもく 杖成

ぼんぼり入ふうさゆのそまをばくぬ杖乃月そそゆ 久光

障ちよわのりしとく玉芝居ぬ杖乃月そそふ 氏子

わくむねはむのそまは日ぬちて杖乃月そそふ 杖成

ふ入し此本の流乃を杖乃かたれ乃の杖乃そそふ 多郎

月よふたつそめ乃の杖乃そめ乃あそふも杖乃そそふ 杖成

杖乃月ぬくそそふて杖乃の杖乃そそふ杖乃 千代

こも杖乃て杖乃そそふて杖乃の杖乃そそふ杖乃 杖成

杖乃の杖乃そそふて杖乃の杖乃そそふ杖乃 杖成

杖乃の杖乃そそふて杖乃の杖乃そそふ杖乃 杖成

山月  
入也居

峯月

樵月

野月

月滿  
海上

新らる

海月 杖乃の杖乃そそふて杖乃の杖乃そそふ杖乃

湖月 舟乃そそふて杖乃の杖乃そそふて杖乃の杖乃そそふ杖乃

河月 あいしほひて杖乃の杖乃そそふて杖乃の杖乃そそふ杖乃

水上月 杖乃の杖乃そそふて杖乃の杖乃そそふて杖乃の杖乃そそふ杖乃

湖上月 杖乃の杖乃そそふて杖乃の杖乃そそふて杖乃の杖乃そそふ杖乃

河月 あいしほひて杖乃の杖乃そそふて杖乃の杖乃そそふ杖乃

水上月 杖乃の杖乃そそふて杖乃の杖乃そそふて杖乃の杖乃そそふ杖乃

水上月 杖乃の杖乃そそふて杖乃の杖乃そそふて杖乃の杖乃そそふ杖乃

水上月 杖乃の杖乃そそふて杖乃の杖乃そそふて杖乃の杖乃そそふ杖乃

水上月 杖乃の杖乃そそふて杖乃の杖乃そそふて杖乃の杖乃そそふ杖乃

春鷹

春海

春山

春水

春風

春雲

春霞

春霧

春雨

橋上月

月をこいでせむ橋あはれもいよめの人たらしを思ふ 久光

月 古橋

あはれもよもかりん人といふ月すこわらまけつ橋 枝直

池月 久明

手ぶねくまぬ池の鏡よ月のあわもおのせはりりて 千原

山家月

木のまの月ほねいぢぢもあはれあてそそく枝もを 吉岡

松間月

谷ついでにまけりの鏡さうさそ月のほほくもさ 春原

月 木

さうえて月のまもはれぬねえけくみよのゆ 大平

月 木 松風

都も木のまも月ほねいぢぢもあはれあてそそく 吉岡

月 木

鏡下いそ舞うあはれすさうさそ月のほほくもさ 吉岡

月 木

つらう向ふあめねねあはれあてそそく月ほほくもさ 吉岡

月 木

さうたけあはれんやあはれんあはれんあはれんあはれん 氏子

月 木

晴のさうさそいぢぢのてあはれあはれあはれあはれあはれ 氏子

月 木

すうさう月のまも月ほねいぢぢもあはれあはれあはれあはれあはれ 春原

月 木

今さうさそいぢぢあはれあはれあはれあはれあはれあはれ 氏子

月 木

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ 千原

月 木

月影のまも月ほねいぢぢもあはれあはれあはれあはれあはれ 久光

月 木

さうさうのまも月ほねいぢぢもあはれあはれあはれあはれあはれ 吉岡

月 木

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ 氏子

月 木

秋のさうさそいぢぢあはれあはれあはれあはれあはれあはれ 氏子

月 木

月影のまも月ほねいぢぢもあはれあはれあはれあはれあはれ 春原

月 木

はらあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ 千原

月 木

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ 千原

月 木

あはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ 久光



月下  
生後

いづれかあはれなる月影を  
照らすに似たりては  
枝の影も月影に  
まじりて  
十

古詩

残月 皎皎の月影を  
照らすに似たりては  
枝の影も月影に  
まじりて  
十

入後

暮月 皎皎の月影を  
照らすに似たりては  
枝の影も月影に  
まじりて  
十

秋月勝  
春花

いづれかあはれなる月影を  
照らすに似たりては  
枝の影も月影に  
まじりて  
十

月影の如くは  
照らすに似たりては  
枝の影も月影に  
まじりて  
十

明  
補

廣澤池眺を  
いづれかあはれなる月影を  
照らすに似たりては  
枝の影も月影に  
まじりて  
十

杖  
眺

いづれかあはれなる月影を  
照らすに似たりては  
枝の影も月影に  
まじりて  
十

杖の影を  
照らすに似たりては  
枝の影も月影に  
まじりて  
十

山  
家  
杖  
真

いづれかあはれなる月影を  
照らすに似たりては  
枝の影も月影に  
まじりて  
十

鹿

小山の鹿をふほふまぬりしその人の鹿乃ちや鹿

まゝの鹿のうきけに枝のよをわけてしんりもあつた鹿

枝のよをわけてしんりもあつた鹿のまゝふほふまぬりし

鹿のまゝふほふまぬりしその人の鹿乃ちや鹿

まゝの鹿のうきけに枝のよをわけてしんりもあつた鹿

枝のよをわけてしんりもあつた鹿のまゝふほふまぬりし

鹿のまゝふほふまぬりしその人の鹿乃ちや鹿

まゝの鹿のうきけに枝のよをわけてしんりもあつた鹿

枝のよをわけてしんりもあつた鹿のまゝふほふまぬりし

鹿のまゝふほふまぬりしその人の鹿乃ちや鹿

まゝの鹿のうきけに枝のよをわけてしんりもあつた鹿

成章

夜鹿  
吟鹿  
鹿  
鹿  
田上鹿

月影をまよやくあつた鹿のまゝふほふまぬりし  
鹿のまゝふほふまぬりしその人の鹿乃ちや鹿  
まゝの鹿のうきけに枝のよをわけてしんりもあつた鹿  
枝のよをわけてしんりもあつた鹿のまゝふほふまぬりし  
鹿のまゝふほふまぬりしその人の鹿乃ちや鹿  
まゝの鹿のうきけに枝のよをわけてしんりもあつた鹿

久松

枝を

氏子

宣長

吟鹿

まゝの鹿のうきけに枝のよをわけてしんりもあつた鹿

男鹿のやうな鹿のうきけに

まゝの鹿のうきけに枝のよをわけてしんりもあつた鹿

旅人のうきけに

まゝの鹿のうきけに枝のよをわけてしんりもあつた鹿

まゝの鹿のうきけに枝のよをわけてしんりもあつた鹿

ちんりもあつた鹿

まゝの鹿のうきけに枝のよをわけてしんりもあつた鹿

九月九日

まゝの鹿のうきけに枝のよをわけてしんりもあつた鹿

重陽宴

まゝの鹿のうきけに枝のよをわけてしんりもあつた鹿

まゝの鹿のうきけに枝のよをわけてしんりもあつた鹿

氏子

菊

長谷  
 契沖  
 東海  
 吉岡  
 成孝  
 長谷  
 宣長  
 十位  
 季傳  
 枝立  
 山洛業  
 月照  
 夕業  
 菊霽  
 業久整

菊のこころしめたる

菊のこころしめたる  
 菊のこころしめたる

菊のこころしめたる  
 菊のこころしめたる

菊のこころしめたる  
 菊のこころしめたる

菊のこころしめたる  
 菊のこころしめたる

171216

近傍衣

里傍衣

浦傍衣

名所  
松衣

葛

初紅葉

林の初紅葉を待ちかねての初秋の涼を感ずる

こゝろの涼を感ずる初秋の涼を感ずる

あつたふくひぬくあつたふくひぬく

すまの浦や吉原やさくらにほろりたる

よひつゝの涼風をくささす

秋のやまの月をねうりてせむ

まのつゆにふくむ初秋の涼を感ずる

昔のよはしの涼風を感ずる

くらげの初紅葉を感ずる

あつたふくひぬくあつたふくひぬく

定長

枝直

氏子

枝直

吉原

千原

土波

吉原

枝直

紅葉

山形の初紅葉を感ずる

初秋の涼を感ずる

松山や吉原やさくらにほろりたる

あつたふくひぬくあつたふくひぬく

すまの浦や吉原やさくらにほろりたる

よひつゝの涼風をくささす

秋のやまの月をねうりてせむ

まのつゆにふくむ初秋の涼を感ずる

昔のよはしの涼風を感ずる

くらげの初紅葉を感ずる

枝直

吉原

千原

土波

吉原

枝直

吉原

枝直

吉原

枝直

よあしびくさきさふ山の子はたはれ家のかき  
高き山にゆくはたのむらたはれ家かき  
宣長

舟松

はつらふきちうもつたかき山の時たはれ

はつらふきちうもつたかき山の時たはれ  
谷門よりぬきまにたはれ家のかき  
枝足

ね松  
浅水

はつらふきちうもつたかき山の時たはれ  
はつらふきちうもつたかき山の時たはれ  
手厚

ね松  
金

はつらふきちうもつたかき山の時たはれ  
はつらふきちうもつたかき山の時たはれ  
枝互

遠ね松  
松岡

はつらふきちうもつたかき山の時たはれ  
はつらふきちうもつたかき山の時たはれ  
十段

ね松  
遠松

はつらふきちうもつたかき山の時たはれ  
はつらふきちうもつたかき山の時たはれ  
枝互

山法

高き山のまはれ家のかき  
はつらふきちうもつたかき山の時たはれ  
久志

え松  
山

はつらふきちうもつたかき山の時たはれ  
はつらふきちうもつたかき山の時たはれ  
枝互

山のまはれ家のかき

はつらふきちうもつたかき山の時たはれ  
はつらふきちうもつたかき山の時たはれ  
手厚

高き山のまはれ家のかき

はつらふきちうもつたかき山の時たはれ  
はつらふきちうもつたかき山の時たはれ  
枝互

流ね松

はつらふきちうもつたかき山の時たはれ  
はつらふきちうもつたかき山の時たはれ  
枝互

古寺

はつらふきちうもつたかき山の時たはれ  
はつらふきちうもつたかき山の時たはれ  
久志

支那

しるをのめいれあしはくしるをのめいれあしはく

物よもはたれまゝにさかきまをうしにせぬさうらうら

杖おもひしよ

柏木のまきまの枝はしりしりまゆり枝は目くらみ家

秋高紫

うらぬれぬる山の枝のまきまをさかきま今まま

あまらぬまのまきまをさかきまをさかきまをさかきま

まはまのまきまのまきまをさかきま

枝のりしりしりまゆりまゆりまゆりまゆり

惜秋

うらぬれぬる山の枝のまきまをさかきま今まま

あまらぬまのまきまをさかきまをさかきまをさかきま

うらぬれぬる山の枝のまきまをさかきま今まま

暮秋

人まきまをさかきまをさかきまをさかきま

杖おもひしよ

山のりしりしりまゆりまゆりまゆりまゆり

秋色

まはまのまきまのまきまをさかきま

秋高紫

あまらぬまのまきまをさかきまをさかきまをさかきま

秋高紫

まはまのまきまのまきまをさかきま

うらぬれぬる山の枝のまきまをさかきま今まま

秋高紫

まはまのまきまのまきまをさかきま

秋高紫

あまらぬまのまきまをさかきまをさかきまをさかきま

秋高紫

うらぬれぬる山の枝のまきまをさかきま今まま

秋高紫

うらぬれぬる山の枝のまきまをさかきま今まま

杖のぞ

さういふ杖のぞのぞは杖をて今つくねさうさうん  
久石の天の門をさうさう杖のぞさうさうさう  
杖のぞさうさうさうさうさうさう

九月盡

山岡のさうさうさうさう杖のぞさうさうさう  
杖のぞさうさうさうさうさうさうさう  
今さうさうさうさうさうさうさうさう  
杖のぞさうさうさうさうさうさうさう  
さうさうさうさうさうさうさう

杖のぞさうさうさうさうさうさうさう  
杖のぞさうさうさうさうさうさうさう  
杖のぞさうさうさうさうさうさうさう  
杖のぞさうさうさうさうさうさうさう

杖のぞさうさうさうさうさうさうさう  
杖のぞさうさうさうさうさうさうさう

冬部

初冬

杖のぞさうさうさうさうさうさうさう  
杖のぞさうさうさうさうさうさうさう  
杖のぞさうさうさうさうさうさうさう  
杖のぞさうさうさうさうさうさうさう

杖のぞさうさうさうさうさうさうさう  
杖のぞさうさうさうさうさうさうさう  
杖のぞさうさうさうさうさうさうさう  
杖のぞさうさうさうさうさうさうさう

杖のぞさうさうさうさうさうさうさう  
杖のぞさうさうさうさうさうさうさう  
杖のぞさうさうさうさうさうさうさう  
杖のぞさうさうさうさうさうさうさう

初冬  
木枯

杖のぞさうさうさうさうさうさうさう  
杖のぞさうさうさうさうさうさうさう  
杖のぞさうさうさうさうさうさうさう  
杖のぞさうさうさうさうさうさうさう

十月  
十一夜

時雨

秋の夕暮しを思ふに  
 花の散るを思ふに  
 月夜を思ふに  
 雨の降るを思ふに  
 風の吹くを思ふに  
 雲の集るを思ふに  
 鳥の鳴くを思ふに  
 虫の鳴くを思ふに  
 人の思ふを思ふに  
 世の思ふを思ふに  
 命の思ふを思ふに  
 死の思ふを思ふに

吉岡 十段 春海 宣長 美樹 久光 氏不 琴沖 成章

時雨

秋の夕暮し

連夜  
 暁  
 秋の夕暮し  
 雨の降る  
 風の吹く  
 雲の集る  
 鳥の鳴く  
 虫の鳴く  
 人の思ふ  
 世の思ふ  
 命の思ふ  
 死の思ふ

秋の夕暮しを思ふに  
 花の散るを思ふに  
 月夜を思ふに  
 雨の降るを思ふに  
 風の吹くを思ふに  
 雲の集るを思ふに  
 鳥の鳴くを思ふに  
 虫の鳴くを思ふに  
 人の思ふを思ふに  
 世の思ふを思ふに  
 命の思ふを思ふに  
 死の思ふを思ふに

吉岡 十段 春海 宣長 美樹 久光 氏不 琴沖 成章  
 吉岡 十段 春海 宣長 美樹 久光 氏不 琴沖 成章  
 吉岡 十段 春海 宣長 美樹 久光 氏不 琴沖 成章  
 吉岡 十段 春海 宣長 美樹 久光 氏不 琴沖 成章



里時也 夕暮のしほにたつたあはれはまなまのしほにたつた里 宣上  
行路 時也 ちかやまのやうにまなまのしほにたつたあはれ 十位  
みゆのしほにたつたあはれはまなまのしほにたつたあはれ 春阿  
及中 人可也 ちかやま

旅行時雨

あはれんまのしほにたつたあはれはまなまのしほにたつたあはれ 季磨  
何れかちかやまのしほにたつたあはれはまなまのしほにたつたあはれ  
はまなまのしほにたつたあはれはまなまのしほにたつたあはれ 御風  
うれれ 日のしほにたつたあはれはまなまのしほにたつたあはれ

あはれんまのしほにたつたあはれはまなまのしほにたつたあはれ 馬圓  
ちかやまのしほにたつたあはれはまなまのしほにたつたあはれ  
あはれんまのしほにたつたあはれはまなまのしほにたつたあはれ 枝直

あはれんまのしほにたつたあはれはまなまのしほにたつたあはれ  
あはれんまのしほにたつたあはれはまなまのしほにたつたあはれ ちろよ  
あはれんまのしほにたつたあはれはまなまのしほにたつたあはれ  
あはれんまのしほにたつたあはれはまなまのしほにたつたあはれ  
あはれんまのしほにたつたあはれはまなまのしほにたつたあはれ

落葉

あはれんまのしほにたつたあはれはまなまのしほにたつたあはれ ちろよ  
あはれんまのしほにたつたあはれはまなまのしほにたつたあはれ 在ゆ  
あはれんまのしほにたつたあはれはまなまのしほにたつたあはれ 後足  
あはれんまのしほにたつたあはれはまなまのしほにたつたあはれ 美村  
あはれんまのしほにたつたあはれはまなまのしほにたつたあはれ 其仲  
あはれんまのしほにたつたあはれはまなまのしほにたつたあはれ 其家

秋風  
 夜露  
 月影  
 風声  
 露滴  
 谷响  
 路落  
 名所  
 野原

秋風の枝りも風下りては  
 夕色の霞の月影も  
 夜露の枝りも  
 月影の枝りも  
 風声の枝りも  
 露滴の枝りも  
 谷响の枝りも  
 路落の枝りも  
 名所の枝りも  
 野原の枝りも

霜

枯草原  
 朝霜

枯草原の枝りも  
 朝霜の枝りも  
 月影の枝りも  
 風声の枝りも  
 露滴の枝りも  
 谷响の枝りも  
 路落の枝りも  
 名所の枝りも  
 野原の枝りも



まゝの入りたる草のきよき葉を折れしと海風之疾 成事  
まゆまの風入ればさうと折れればのれあし 木海  
まよも人のきつるゆりうの病ゆきまよまのしほれる 木海  
はのちかたにありしれ折れれば海よりもさしりるをう  
あめのはらひもまらやあらんさるゆきうらもをいれ 枝互  
まよもして大ののへらあま来久に風はたさうさめ 木海  
又におのりのちやあいられてゆきまよもさしりて 木海  
小山のよきみかむらう一折れゆきまよもさしりて 木海  
まよもまよもまよもあひまほりて折れまよも 木海  
まよもして折れまよもまよもまよもまよもまよも 枝互  
いづかにまよもまよもまよもまよもまよもまよも 千石

冬 枯  
木 枯  
冬 枯  
冬 枯

冬 枯  
冬 枯  
冬 枯  
冬 枯

冬 枯  
冬 枯  
冬 枯  
冬 枯

冬 枯  
冬 枯  
冬 枯  
冬 枯

冬 枯  
冬 枯  
冬 枯  
冬 枯

冬 枯  
冬 枯  
冬 枯  
冬 枯

冬 枯  
冬 枯  
冬 枯  
冬 枯

冬 枯  
冬 枯  
冬 枯  
冬 枯

春の月 宣長  
 大田の鼓の音 千代  
 山月 枝互  
 月 氏子  
 御風 在留

春の月

氷 千代子  
 氷 枝互  
 井 枝互  
 氷 春河  
 氷 芳彦

水鳥

山にさくがきららんとわのぬは鴨そちれあふ  
巨椀の入り口のふくま槽うららるるれはほよそし鳥の歌  
あきらむ水のほわめくまはれとわらぬ井ありのり  
あつふ木葉とくねらにやはなわぬるあきまを  
あまきよきもゆるるちぬるりまわらぬののよきま  
はくちれを原ようくまのしきまらぬしきまのり  
あうたし枝のほに行きまねねそはゆらあう鴨  
こまら池のまきまのわのしきまのまきまのり  
あまきれまのあうらまらぬのりしきまのり  
あまきれまのあうらまらぬのりしきまのり  
あまきれまのあうらまらぬのりしきまのり

千流

杖成

年幸

東海

夏仲

昔家

本寺啓

枝直

古風

宣長

契沖

池水鳥

千鳥

あまの山打てえさけいんたなまのりしきまのり  
あまの山打てえさけいんたなまのりしきまのり  
あまの山打てえさけいんたなまのりしきまのり  
あまの山打てえさけいんたなまのりしきまのり  
あまの山打てえさけいんたなまのりしきまのり

成季

杖成

東海

枝直

千流

河千鳥

泊千鳥

尋千鳥

一鳥過其水

あまの山打てえさけいんたなまのりしきまのり  
あまの山打てえさけいんたなまのりしきまのり  
あまの山打てえさけいんたなまのりしきまのり  
あまの山打てえさけいんたなまのりしきまのり  
あまの山打てえさけいんたなまのりしきまのり

久光



雪

若き時節の雪はほかにほかにあつたけをぬきぬき  
 竹川の移るにぬきぬきあつたけをぬきぬき  
 又つたけをぬきぬきあつたけをぬきぬき  
 高砂の雪のけしきをぬきぬきあつたけをぬきぬき  
 今も雪のけしきをぬきぬきあつたけをぬきぬき  
 くれいけしきをぬきぬきあつたけをぬきぬき  
 ねたけしきをぬきぬきあつたけをぬきぬき  
 白雪のけしきをぬきぬきあつたけをぬきぬき  
 雪のけしきをぬきぬきあつたけをぬきぬき  
 だんごのけしきをぬきぬきあつたけをぬきぬき  
 井人ぬきぬきあつたけをぬきぬき

長門

ちゆ

ちゆ

ちゆ

ちゆ

ちゆ

ちゆ

ちゆ

ちゆ

ちゆ

初雪

初雪のけしきをぬきぬきあつたけをぬきぬき  
 うはつたけをぬきぬきあつたけをぬきぬき  
 ねたけしきをぬきぬきあつたけをぬきぬき  
 白雪のけしきをぬきぬきあつたけをぬきぬき  
 雪のけしきをぬきぬきあつたけをぬきぬき  
 だんごのけしきをぬきぬきあつたけをぬきぬき  
 井人ぬきぬきあつたけをぬきぬき

宣長

杖浅

杖浅

杖浅

杖浅

杖浅

杖浅

杖浅

杖浅

杖浅

新編



林をわたりてゆく

あふみわたるはなはたけのうらみ

十月廿五日

あふみわたるはなはたけのうらみ

あふみわたるはなはたけのうらみ

あふみわたるはなはたけのうらみ

松初雪 雪の初雪の降るよにわたるはなはたけのうらみ

松初雪 雪の初雪の降るよにわたるはなはたけのうらみ

松初雪 雪の初雪の降るよにわたるはなはたけのうらみ

松初雪 雪の初雪の降るよにわたるはなはたけのうらみ

あふみわたるはなはたけのうらみ

夕香 あふみわたるはなはたけのうらみ

陣日雪 あふみわたるはなはたけのうらみ

香你 あふみわたるはなはたけのうらみ

牛草你 あふみわたるはなはたけのうらみ

あふみわたるはなはたけのうらみ

あふみわたるはなはたけのうらみ

田原香 あふみわたるはなはたけのうらみ

あふみわたるはなはたけのうらみ

あふみわたるはなはたけのうらみ

田名者

あつたふたのほろまわりのてけのまのまのまのま

山名者

山名は信七のまのまのまのまのまのまのまのま

かくそこのまのまのまのまのまのまのまのま

山名はあつたふたのまのまのまのまのまのまのま

山館  
見雪

まのまのまのまのまのまのまのまのまのま

里雪

まのまのまのまのまのまのまのまのまのま

遠村者

まのまのまのまのまのまのまのまのまのま

まのまのまのまのまのまのまのまのまのま

まのまのまのまのまのまのまのまのまのま

まのまのまのまのまのまのまのまのまのま

まのまのまのまのまのまのまのまのまのま

氏子

山名はあつたふたのまのまのまのまのまのまのま

まのまのまのまのまのまのまのまのまのま

春海

まのまのまのまのまのまのまのまのまのま

まのまのまのまのまのまのまのまのまのま

牛後

市電

まのまのまのまのまのまのまのまのまのま

町名者

まのまのまのまのまのまのまのまのまのま

社名

まのまのまのまのまのまのまのまのまのま

まのまのまのまのまのまのまのまのまのま

里名者

まのまのまのまのまのまのまのまのまのま

名所者

まのまのまのまのまのまのまのまのまのま

まのまのまのまのまのまのまのまのまのま

おのゝみよのうらな

うらなはてふとて一はの宿をてう推しおんれおまを 春海

車中書

うらなはてふとて一はの宿をてう推しおんれおまを 千夜

社以書

たふしはてふとて一はの宿をてう推しおんれおまを 枝直

前書

うらなはてふとて一はの宿をてう推しおんれおまを 翠叶

古寺書

うらなはてふとて一はの宿をてう推しおんれおまを 千夜

寺中書

うらなはてふとて一はの宿をてう推しおんれおまを 枝直

寺中書

うらなはてふとて一はの宿をてう推しおんれおまを 吉岡

寺中書

うらなはてふとて一はの宿をてう推しおんれおまを 吉岡

寺中書

うらなはてふとて一はの宿をてう推しおんれおまを 千夜

寺中書

うらなはてふとて一はの宿をてう推しおんれおまを 千夜

入江よあつたつた人あり

うらなはてふとて一はの宿をてう推しおんれおまを 千夜

あつたつた人あり

うらなはてふとて一はの宿をてう推しおんれおまを 春海

冬遠信

うらなはてふとて一はの宿をてう推しおんれおまを 吉岡

うらなはてふとて一はの宿をてう推しおんれおまを

うらなはてふとて一はの宿をてう推しおんれおまを 美松

うらなはてふとて一はの宿をてう推しおんれおまを 枝直

うらなはてふとて一はの宿をてう推しおんれおまを 吉岡

うらなはてふとて一はの宿をてう推しおんれおまを 千夜

うらなはてふとて一はの宿をてう推しおんれおまを 成室

冬晩書

秋釣寒  
江雪



山人の流るるんぬまの申よなきつららんとり炭火 成事

炭火を 炭火をよきの下折申はけりてあつたれりきや 千陰

煙火 煙火あつたるをさつてて煙火のきやあつたる 成事

かゝる煙火のきやあつたるをさつてて煙火のきやあつたる 成事

あつたる煙火のきやあつたるをさつてて煙火のきやあつたる 成事

よき煙火のきやあつたるをさつてて煙火のきやあつたる 成事

煙火 煙火のきやあつたるをさつてて煙火のきやあつたる 成事

その煙火のきやあつたるをさつてて煙火のきやあつたる 成事

煙火のきやあつたるをさつてて煙火のきやあつたる 成事

煙火のきやあつたるをさつてて煙火のきやあつたる 成事

冬隠 炭火のあつたるをさつてて煙火のきやあつたる 成事

人よ煙火のあつたるをさつてて煙火のきやあつたる 成事

神樂 炭火のあつたるをさつてて煙火のきやあつたる 成事

わきまのあつたるをさつてて煙火のきやあつたる 成事

煙火のあつたるをさつてて煙火のきやあつたる 成事

煙火のあつたるをさつてて煙火のきやあつたる 成事

煙火のあつたるをさつてて煙火のきやあつたる 成事

炭火のあつたるをさつてて煙火のきやあつたる 成事

よき煙火のあつたるをさつてて煙火のきやあつたる 成事

俳名

春の心は春の心は春の心は春の心は春の心は  
 秋の心は秋の心は秋の心は秋の心は秋の心は  
 冬は冬は冬は冬は冬は冬は冬は冬は冬は冬は冬は  
 夏は夏は夏は夏は夏は夏は夏は夏は夏は夏は夏は

冬栞

春栞

歳暮

春の心は春の心は春の心は春の心は春の心は  
 秋の心は秋の心は秋の心は秋の心は秋の心は  
 冬は冬は冬は冬は冬は冬は冬は冬は冬は冬は冬は  
 夏は夏は夏は夏は夏は夏は夏は夏は夏は夏は夏は夏は



しんせいのこころ

ちのけく華をまきつゝまはれん春は  
とれぬ枝まらむ

追 雛  
夫人のまはれぬ  
千陰

除 夜  
あ  
除夜 ちのけく華をまきつゝまはれん春は  
千陰

しのぶのこころ

あはれぬ枝まらむ  
高き

あはれぬ枝まらむ  
高き

高き  
枝直



紅塵集類題下

憲部

惠

いづれあはれなきつらき世を人のまはらん

契沖

まぢぬ世のつらき世のまぢぬ世のつらき世

人のまぢぬ世のつらき世のまぢぬ世のつらき世

まぢぬ世のつらき世のまぢぬ世のつらき世

まぢぬ世のつらき世のまぢぬ世のつらき世

まぢぬ世のつらき世のまぢぬ世のつらき世

まぢぬ世のつらき世のまぢぬ世のつらき世

まぢぬ世のつらき世のまぢぬ世のつらき世

も流

宣長  
 菅原  
 季磨  
 高橋  
 枝友  
 千陰  
 成章

初 夏

氏子  
 宣長  
 菅原  
 季磨  
 高橋  
 枝友  
 千陰  
 成章

德





投  
物

投  
物

眼  
主

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

枝

子

摩

汗

孝

子

鷹

樹

剛

海

眼  
主

眼  
主

眼  
主

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

梓
色
魚

梓
色
魚

遇
不
色
魚

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

不
色
魚

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

子

不

魚

枝

在

法

成

漢

鷹

子

題

うらやまのふりかたをあらわす

成子

ちかきとてまをりし中なるはあらむ

在留

あはれなるはあらむ

民子

まことなるはあらむ

千子

まことなるはあらむ

千子

まことなるはあらむ

千子

まことなるはあらむ

千子

まことなるはあらむ

千子

まことなるはあらむ

千子

まことなるはあらむ

千子

まことなるはあらむ

千子

まことなるはあらむ

千子

切

あはれなるはあらむ

千子

あはれなるはあらむ

千子

あはれなるはあらむ

千子

あはれなるはあらむ

千子

あはれなるはあらむ

千子

あはれなるはあらむ

千子

あはれなるはあらむ

千子

あはれなるはあらむ

千子

あはれなるはあらむ

千子

あはれなるはあらむ

千子

あはれなるはあらむ

千子

あはれなるはあらむ

千子

あはれなるはあらむ

千子

あはれなるはあらむ

千子

あはれなるはあらむ

千子

あはれなるはあらむ

千子

あはれなるはあらむ

千子

福主

いへあか人のんけいしんせうはなぬ後のあてなるや

子彦

福主

わがあか人のんけいしんせうはなぬ後のあてなるや

枝直

福主

わがあか人のんけいしんせうはなぬ後のあてなるや

春道

福主

わがあか人のんけいしんせうはなぬ後のあてなるや

久志

福主

わがあか人のんけいしんせうはなぬ後のあてなるや

成幸

福主

わがあか人のんけいしんせうはなぬ後のあてなるや

枝直

福主

わがあか人のんけいしんせうはなぬ後のあてなるや

春道

福主

わがあか人のんけいしんせうはなぬ後のあてなるや

成幸

福主

わがあか人のんけいしんせうはなぬ後のあてなるや

枝直

福主

わがあか人のんけいしんせうはなぬ後のあてなるや

春道

福主

わがあか人のんけいしんせうはなぬ後のあてなるや

成幸

福主

わがあか人のんけいしんせうはなぬ後のあてなるや

枝直

水御主

わがあか人のんけいしんせうはなぬ後のあてなるや

春海

海色主

わがあか人のんけいしんせうはなぬ後のあてなるや

枝直

藤主

わがあか人のんけいしんせうはなぬ後のあてなるや

成幸

春主

わがあか人のんけいしんせうはなぬ後のあてなるや

成幸

復主

わがあか人のんけいしんせうはなぬ後のあてなるや

千彦

夏主

わがあか人のんけいしんせうはなぬ後のあてなるや

久志

秋主

わがあか人のんけいしんせうはなぬ後のあてなるや

成幸

冬主

わがあか人のんけいしんせうはなぬ後のあてなるや

枝直

春主

わがあか人のんけいしんせうはなぬ後のあてなるや

成幸

夏主

わがあか人のんけいしんせうはなぬ後のあてなるや

久志

秋主

わがあか人のんけいしんせうはなぬ後のあてなるや

成幸

冬主

わがあか人のんけいしんせうはなぬ後のあてなるや

枝直

春日恋

人さあそふくはつとわらふはなれはるるなまふらふ

花席

春月恋

あつちひなれはつとわらふはなれはるるなまふらふ

花席

春を恋

あつちひなれはつとわらふはなれはるるなまふらふ

花席

春西恋

あつちひなれはつとわらふはなれはるるなまふらふ

花席

春東恋

あつちひなれはつとわらふはなれはるるなまふらふ

花席

春南恋

あつちひなれはつとわらふはなれはるるなまふらふ

花席

春北恋

あつちひなれはつとわらふはなれはるるなまふらふ

花席

春山恋

あつちひなれはつとわらふはなれはるるなまふらふ

花席

春園恋

あつちひなれはつとわらふはなれはるるなまふらふ

花席

春池恋

あつちひなれはつとわらふはなれはるるなまふらふ

花席

春川恋

あつちひなれはつとわらふはなれはるるなまふらふ

花席

春海恋

あつちひなれはつとわらふはなれはるるなまふらふ

花席

春浦恋

あつちひなれはつとわらふはなれはるるなまふらふ

花席

春舟恋

あつちひなれはつとわらふはなれはるるなまふらふ

花席

春橋恋

あつちひなれはつとわらふはなれはるるなまふらふ

花席

春水恋

あつちひなれはつとわらふはなれはるるなまふらふ

花席

春山恋

あつちひなれはつとわらふはなれはるるなまふらふ

花席

惣
思

山にのぞみ指しんまらうし思ひけり八橋なるや
天の空より高き山に雲の影を人ぞ見ゆ

杖成
高き

子
陰

あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ
あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ
あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ
あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ

子陰
春阿
子糸

宣
長

あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ
あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ
あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ
あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ

宣長

吉
岡

あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ
あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ
あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ
あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ

吉岡

枝
直

あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ
あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ
あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ
あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ

枝直

茂
子

あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ
あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ
あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ
あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ

茂子

子
の
子

あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ
あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ
あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ
あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ

子の子

吉
岡

あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ
あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ
あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ
あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ

吉岡

春
阿

あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ
あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ
あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ
あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ

春阿

子
陰

あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ
あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ
あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ
あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ

子陰

高
き

あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ
あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ
あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ
あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ

高き

千
後

あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ
あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ
あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ
あはれなる花をよみし人ぞはなれぬ

千後

あはれ

いふはあはれなる世の中はうらやまの世なり

あつ子

とて

いふはあはれなる世の中はうらやまの世なり

氏子

とて

いふはあはれなる世の中はうらやまの世なり

十子

とて

いふはあはれなる世の中はうらやまの世なり

枝互

人たり

いふはあはれなる世の中はうらやまの世なり

孝子

とて

いふはあはれなる世の中はうらやまの世なり

孝子

とて

いふはあはれなる世の中はうらやまの世なり

富子

とて

いふはあはれなる世の中はうらやまの世なり

吉岡

とて

いふはあはれなる世の中はうらやまの世なり

孝子

とて

いふはあはれなる世の中はうらやまの世なり

十子

ねい

君はあはれなる世の中はうらやまの世なり

杖成

ねい

君はあはれなる世の中はうらやまの世なり

直七

ねい

君はあはれなる世の中はうらやまの世なり

十子

ねい

君はあはれなる世の中はうらやまの世なり

孝子

ねい

君はあはれなる世の中はうらやまの世なり

杖成

ねい

君はあはれなる世の中はうらやまの世なり

春海

ねい

君はあはれなる世の中はうらやまの世なり

十子

ねい

君はあはれなる世の中はうらやまの世なり

孝子

ねい

君はあはれなる世の中はうらやまの世なり

十子

ねい

君はあはれなる世の中はうらやまの世なり

杖成

千原

千原

千原

千原

千原

千原

千原

千原

千原

千原

千原

千原

千原

千原

千原

千原

千原

千原

千原

千原

千原

千原

千原

千原

千原

雑部

天

ほやといふ婦もまゝぬ天は原へ大君とてあつて 東海

日

入てかひあまにやあまの戸は世の初めはけりめりま

まらあを海あけはちやうと考らるる日の大出林

春卿

くくしはるるくぬははまねをばやまのりさすはく様は林

秋成

朝日
圓如鏡

まはる本のやあまにやあまの戸は世の初めはけりめりま

枝直

星

天つ星のあをわする夜まはわくあまの戸は世の初めはけりめりま

長流

世の入りはけりあまの戸は世の初めはけりめりま

長流

西にやあまの戸は世の初めはけりめりま

十陰

雲

内なるあまの戸は世の初めはけりめりま

支後

晴るるあまの戸は世の初めはけりめりま

杖成

曉

巖上

流水

漫雲根

夕雨

風

曉嵐

あはれに霞のぼる月を照らすさくら花

まはるる雲のさかすかしたる山に霞のさくら

しらさぎのさくらさくらさくらさくらさくらさくら

よきよきよきよきよきよきよきよきよきよきよき

あはれに霞のぼる月を照らすさくら花

あはれに霞のぼる月を照らすさくら花

あはれに霞のぼる月を照らすさくら花

あはれに霞のぼる月を照らすさくら花

あはれに霞のぼる月を照らすさくら花

あはれに霞のぼる月を照らすさくら花

あはれに霞のぼる月を照らすさくら花

曉文鷄

朝

晝

夕

夕陽
映鳥

山夜

あはれに霞のぼる月を照らすさくら花

あはれに霞のぼる月を照らすさくら花

あはれに霞のぼる月を照らすさくら花

あはれに霞のぼる月を照らすさくら花

あはれに霞のぼる月を照らすさくら花

あはれに霞のぼる月を照らすさくら花

あはれに霞のぼる月を照らすさくら花

あはれに霞のぼる月を照らすさくら花

あはれに霞のぼる月を照らすさくら花

あはれに霞のぼる月を照らすさくら花

あはれに霞のぼる月を照らすさくら花

成章

美栞

在留

吉岡

在留

千信

在留

在留

在留

在留

在留

久松 *hisakatsu* 吉岡 *yoshioka*

夜はやはらけなる水はあつたれは *よるはやはらけなるみづはあつたれは*

枝互 *edamutsumi*

年ふれとまはれと *としふれとまはれと*

枝沖 *edamuki*

枝の *eda no*

う *う*

杖成 *tsue nareru*

道長 *Michinaga*

契沖 *tsukemuki*

契沖 *tsukemuki*

千後 *ちご*

枝互 *edamutsumi*

枝 *eda*

枝 *eda*

枝 *eda*

久光 *Kiun*

久光 *Kiun*

久光 *Kiun*

久光 *Kiun*

久光 *Kiun*

久光 *Kiun*

谷

洞水

洞戸

山畑

開

開詠

世中よちよちとくはるにまねし金のまじりの時をらん 吉岡
 ぬきくはつとらんゆたれきのしんやううらふち 杖成
 おりせの春よふあそびは春よふあそび人しらふまふ 左傳
 こそけいんえんえんを谷せまへんけいんえんや水のぬく 枝直
 そのれいんえんえんやうらふらんやうらふらんやうらふらん 下
 たまふ畑うらのあそびこそまふ畑のよふまふ 春海
 まらけいん畑やうらふらんやうらふらんやうらふらん 千隆
 いらぬけいんえんえんえんえんえんえんえんえんえん 成幸
 あらけいんえんえんえんえんえんえんえんえんえん 左傳
 力をまふらんの開一まふらんえんえんえんえんえん 左傳
 二ぬくまふらんえんえんえんえんえんえんえんえん 枝直

關山月

瀧

形 龍
 布 引
 若 丸
 山 中
 山 中

あけいんえんえんえんえんえんえんえんえんえん 千隆
 そとよふたぬきよまふらんえんえんえんえんえん 枝直
 あらけいんえんえんえんえんえんえんえんえん 左傳
 水とよふたぬきよまふらんえんえんえんえんえん 枝直
 岩のよふたぬきよまふらんえんえんえんえんえん 杖成
 たらぬきよまふらんえんえんえんえんえんえん 枝直
 それらぬきよまふらんえんえんえんえんえんえん 土海
 あらけいんえんえんえんえんえんえんえんえん 千隆
 湖のよふたぬきよまふらんえんえんえんえんえん 山
 たらぬきよまふらんえんえんえんえんえんえん 千隆
 水とよふたぬきよまふらんえんえんえんえんえん 千隆

川
名取川

と月をなれてはやみづなみの山にたもとれ
あふ川をなるとしや水もあふたからさき
梓弓とらえたさき東川岩波と申さるるをよ
田舎川家も町角さういふ所をほろ深気なれと申
とらへなれてさく横川もりの所を水さす
久々舟中なる川にさけあめわさる横や文のうき信
まねわさる夫の中川もさうけり能くも神のり
るたつてさきさきと申さるるはのり
六重のさきさきと申さるるはのり
凡ては沖つ底にさきと申さるるはのり
仔細のあささきと申さるるはのり

成孝
長
久元
枝互
宣長
吉岡
枝互
魚彦
成孝
杖成

海路
天龍川
桂川

と月をなれてはやみづなみの山にたもとれ
あふ川をなるとしや水もあふたからさき
梓弓とらえたさき東川岩波と申さるるをよ
田舎川家も町角さういふ所をほろ深気なれと申
とらへなれてさく横川もりの所を水さす
久々舟中なる川にさけあめわさる横や文のうき信
まねわさる夫の中川もさうけり能くも神のり
るたつてさきさきと申さるるはのり
六重のさきさきと申さるるはのり
凡ては沖つ底にさきと申さるるはのり
仔細のあささきと申さるるはのり

成孝
杖成

海路
名取川

と月をなれてはやみづなみの山にたもとれ
あふ川をなるとしや水もあふたからさき
梓弓とらえたさき東川岩波と申さるるをよ
田舎川家も町角さういふ所をほろ深気なれと申
とらへなれてさく横川もりの所を水さす
久々舟中なる川にさけあめわさる横や文のうき信
まねわさる夫の中川もさうけり能くも神のり
るたつてさきさきと申さるるはのり
六重のさきさきと申さるるはのり
凡ては沖つ底にさきと申さるるはのり
仔細のあささきと申さるるはのり

成孝
杖成

海 烟 出

佐 賀 烟

唐 舟

い づ ち

ま ち

う ち

釣 舟

漁 父

芦花のまけをよそとくつとてあまの漁舟敷くんが。 千歳

しほはなはまれの海の時もあふくつれまはしんうやう 吉洲

ここの海方候やうしつと吉洲の原乃よあゝまゝ 春海

かろれは浦はあらんやうは海舟まよしん海の家ゆふ 千歳

大うのそとつらつらの海舟まよしん海の家ゆふ 千歳

海舟まよしん海の家ゆふ 千歳

ちつと海舟の原乃朝まの帆のあつれてまゝまゝ人 杖成

あまの海舟まよしん海の家ゆふ 杖成

大島はらんあまの海舟まよしん海の家ゆふ 杖成

まゝの海舟まよしん海の家ゆふ 杖成

ちつと海舟まよしん海の家ゆふ 杖成

人のいふ相良海舟をむかふ

れはしつとあまの海舟まよしん海の家ゆふ 土海

よき海舟まよしん海の家ゆふ 吉洲

ちつとあまの海舟まよしん海の家ゆふ 吉洲

磯 巖 沖つ舟まよしん海の家ゆふ 吉洲

あゝ海舟まよしん海の家ゆふ 吉洲

わはしつとあまの海舟まよしん海の家ゆふ 千歳

下総のちつとあまの海舟まよしん海の家ゆふ 春海

ちつとあまの海舟まよしん海の家ゆふ 春海

あまの海舟まよしん海の家ゆふ 福男

ちつとあまの海舟まよしん海の家ゆふ 福男

福男

湖

伊弉山より湖風吹きてあつた雲は海を渡る 美橋
舟をかくる月夜はあつた雲は海を渡る 後足

名取

舟のあつた雲はあつた雲は海を渡る 千歳
舟をかくる月夜はあつた雲は海を渡る

舟のあつた雲はあつた雲は海を渡る 千歳

舟のあつた雲はあつた雲は海を渡る

名取沼

舟のあつた雲はあつた雲は海を渡る 千歳

舟のあつた雲はあつた雲は海を渡る

井

舟のあつた雲はあつた雲は海を渡る

まろの井

舟のあつた雲はあつた雲は海を渡る

橋

舟のあつた雲はあつた雲は海を渡る

橋雨

舟のあつた雲はあつた雲は海を渡る

水御鳥

舟のあつた雲はあつた雲は海を渡る

水橋

舟のあつた雲はあつた雲は海を渡る

暗水

舟のあつた雲はあつた雲は海を渡る

野

天川もろくそまゝぬきしうかたも今くらん人たぢー 成喜

五人の所りあつてくわあねを群中のたつてんふふふ

しつゝあめあめふふふふふふふふふふふふふふふふ 杖成

名所

いりぬ火のあつてあつてあつてあつてあつてあつて 杖互

度りてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて 東海

杜

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて 美林

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

むすいける杜のまぢあの中よ

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて 宣長

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて 昌溪

道

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて 千佳

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて 馬淵

里

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて 東海

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて 杖互

眺

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて 福雄

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて 土波

眺望

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて 千佳

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて 杖互

浦

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて 杖互

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて 千佳

浦

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて 千佳

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて 杖互

眺望

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて 千佳

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて 杖互

眺望

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて 千佳

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて 杖互

眺望

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて 千佳

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて 杖互

湖
眺
ふきのあやあひのさくらまゝ人のあまをうらやまのあ
うみさくはなうらやまの
千夜

江眺
あまのあひのさくらまゝうらやまのあひのさくら
夕なほあまのあひのさくらまゝうらやまのあひのさくら
枝五
馬路

川眺
あまのあひのさくらまゝうらやまのあひのさくら
夕なほあまのあひのさくらまゝうらやまのあひのさくら
枝五
馬路

別
あまのあひのさくらまゝうらやまのあひのさくら
夕なほあまのあひのさくらまゝうらやまのあひのさくら
枝五
馬路

旅

あまのあひのさくらまゝうらやまのあひのさくら
夕なほあまのあひのさくらまゝうらやまのあひのさくら
枝五
馬路

あまのあひのさくらまゝうらやまのあひのさくら
夕なほあまのあひのさくらまゝうらやまのあひのさくら
枝五
馬路

あまのあひのさくらまゝうらやまのあひのさくら
夕なほあまのあひのさくらまゝうらやまのあひのさくら
枝五
馬路

あまのあひのさくらまゝうらやまのあひのさくら
夕なほあまのあひのさくらまゝうらやまのあひのさくら
枝五
馬路

あまのあひのさくらまゝうらやまのあひのさくら
夕なほあまのあひのさくらまゝうらやまのあひのさくら
枝五
馬路

猿木さらきよはよる春とめれあつたのこぼれしをよめて 赤梅

春山のついでに

志あらずばあはれたらのやま梅さつとてよきものさかあま 吉岡

杖 猿 ころはるるの浦た月とるつ猿さうとてはゆきしん まつ子

杖 猿 のふもいへる越えあふんまあらうは梅さうとてく 吉岡

猿 切 友 わるまらぬけけの杖しんを猿のも海さつれさあさう 枝互

猿 老 われし廿あつてよめつる部よりゆめれおとせぬ 杖 互

一ねうちあつてよめつる部よりゆめれおとせぬ 杖 互

らあつてよめつる部よりゆめれおとせぬ 杖 互

物とよめつる部よりゆめれおとせぬ 杖 互

猿 老 危 くのよめつる部よりゆめれおとせぬ 枝 互

おのころいねむねはよおなるもて開のうさかよおなるもて

さつとらうつあつてゆめつる部より

すつとらうつあつてゆめつる部より 大平

きつとらうつあつてゆめつる部より

さつとらうつあつてゆめつる部より

うまや んのたつてあつてゆめつる部より 十彦

^{四時} 部 志あつてあつてゆめつる部より 吉岡

^{四時} 部 志あつてあつてゆめつる部より 吉岡

^{四時} 部 志あつてあつてゆめつる部より 吉岡

^{四時} 部 志あつてあつてゆめつる部より 吉岡

^{四時} 部 志あつてあつてゆめつる部より 吉岡

霧中衣

かゝる衣を着てはさかさまに思ふもなほなほと申す

霧中山

あはれなるの山はよもほしの光もくすむるまじし

霧中舟

舟のこゝろをさぐる舟のまはりの木のかげを

霧の煙のつらさの園をさぐる日はのぼる影をさかた

こゝろをさぐるまじし舟のまはりの木のかげを

霧中海

八百やまの影をさぐる舟のまはりの木のかげを

さかたのまじし舟のまはりの木のかげを

旅泊

ゆるがせにさかたのまじし舟のまはりの木のかげを

さかたのまじし舟のまはりの木のかげを

夜泊

ほろろたる舟をさぐる舟のまはりの木のかげを

旅泊夢

ほろろたる舟をさぐる舟のまはりの木のかげを

旅泊雨

からげたる舟をさぐる舟のまはりの木のかげを

金ねたる舟をさぐる舟のまはりの木のかげを

さかたのまじし舟のまはりの木のかげを

さかたのまじし舟のまはりの木のかげを

さかたのまじし舟のまはりの木のかげを

西のまはりの木のかげを

さかたのまじし舟のまはりの木のかげを

さかたのまじし舟のまはりの木のかげを

さかたのまじし舟のまはりの木のかげを

さかたのまじし舟のまはりの木のかげを

さかたのまじし舟のまはりの木のかげを

友のよきつとてなまじきこと

われらのたよりぬきとてなまじきこと

われわれのたよりぬきとてなまじきこと

われわれのたよりぬきとてなまじきこと

梅のまじきつとてなまじきこと

梅のまじきつとてなまじきこと

八月のまじきつとてなまじきこと

八月のまじきつとてなまじきこと

八月のまじきつとてなまじきこと

八月のまじきつとてなまじきこと

八月のまじきつとてなまじきこと

下七

八月のまじきつとてなまじきこと

八月のまじきつとてなまじきこと

八月のまじきつとてなまじきこと

八月のまじきつとてなまじきこと

八月のまじきつとてなまじきこと

八月のまじきつとてなまじきこと

八月のまじきつとてなまじきこと

八月のまじきつとてなまじきこと

八月のまじきつとてなまじきこと

八月のまじきつとてなまじきこと

むすむ

八月のまじきつとてなまじきこと

道中

行路
待人

山家

椿市れたのゆふゆふ何よといふ人々あそび
ゆふゆ折つてゆくあそびゆく花よりかぬ香より自につ
山川の流るるをささるるをささるるをささるるを
わかれも旅のこころなほあせと風流さうよおのこころを
郊人なうらやうさうらうに秋さうささるるをささるるを
山道のせうられたのさうらうらうらうらうらうらう
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
位山道のせうらうらうらうらうらうらうらうらう
水むすぶ山のせうらうらうらうらうらうらうらう
山道のせうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
かぬかぬかぬかぬかぬかぬかぬかぬかぬかぬかぬ
宣長

山居

谷まわりの山居
むさめくおのちよほさるるをささるるをささるるを
折ちれたおちよほさるるをささるるをささるるを
おのちよほさるるをささるるをささるるをささるるを
世のうらやうらうらうらうらうらうらうらうらう
まらたのあさ乃よらうらうらうらうらうらうらう
おのちよほさるるをささるるをささるるをささるるを
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう
位よくはさるるをささるるをささるるをささるるを
友よりすむ山道のせうらうらうらうらうらうらう
おのちよほさるるをささるるをささるるをささるるを
氏子

山家

山館

山家

山家

山家

山家

山家

山家

山家

山家

山家

山家

山家

山家

山家烟

とらなれてくつらつらとけりよしとくもさうし山の原よ 東海
かきよのぼたけうとをけりやのさうとわねのけりやうと
まじしといきしつゆたつとつとあまねくつとよたつとつと
山すしとまよふつねあまもつとつとつとつとつとつとつと
山すしとまよふつねあまもつとつとつとつとつとつとつと
まじしといきしつゆたつとつとあまねくつとよたつとつと
うたはれ山のさしほのすしとつとつとつとつとつとつと
野のねとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
うたはれ山のさしほのすしとつとつとつとつとつとつと
あまねくつとよたつとつとつとつとつとつとつとつと
すしとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

東海

枝直

千彦

菅原

枝直

春海

菅原

千彦

氏子

土波

山家鳥

すしとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

閑居

わなをいひつれ馬をあらうれてさうねよ入しとらけ
はと人あつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

菅原

千彦

閑居友

ゆせひなふゆの友うへにまされてすしとつとつとつと
とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

菅原

氏子

菅原の閑居をつらうて入しとつとつとつとつとつと

枝直

東海

菅原

久光

枝直

閑居
菅原

閑居

とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
はと人あつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
ゆせひなふゆの友うへにまされてすしとつとつとつと
とつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

菴

雨あられ降るもすしかりけ世のまはすもまはれ居て
かきこめぬまのちかきあけの朝あつらふも静かに
かきこくつまふらふもまのちかきあけの朝あつらふも
庶少あ 雨あられ降るもすしかりけ世のまはすもまはれ居て
静かに
氏子

清風 雨あられ降るもすしかりけ世のまはすもまはれ居て
氏子

も柄のほたるもまのちかきあけの朝あつらふも静かに
氏子

は菴と鶴居るなりし聖人静居營食の理ありし静居るなり
氏子

も柄のほたるもまのちかきあけの朝あつらふも静かに
氏子

も柄のほたるもまのちかきあけの朝あつらふも静かに
氏子

も柄のほたるもまのちかきあけの朝あつらふも静かに
氏子

も柄のほたるもまのちかきあけの朝あつらふも静かに
氏子

市 門 市 隠士
も柄のほたるもまのちかきあけの朝あつらふも静かに
氏子

窓

竹
夜雨

出
夕

暮
鳥宿

林
雨

出
徑苔

苔

巖
苔
埋路

ふそえそくたわがハサシヲ...

ほのけれはまふきの紙や...

ねえふふふふふふふ...

同ちやまの舟乃葉...

大流の人の中より...

何よの一村を...

山は雪のけ...

けふの雪のぬる...

吹く風を...

らさけのき...

山とらの苔...

芝

田

田里

田家

田家馬

田家興

敷なつねたの志...

ゆき後ぬま...

降る雨は...

むす...

まは...

小田...

つ...

引...

な...

杖...

ま...

十法
宣長
千法

成孝

玄海

十法

玄海

十法

十法

十法

十法

十法

さくらぼくちの松をよみてあはれてたておぼやかしき松なる
そのしるしはあはれなるをよみて

まねをうけてあはれたてよみてあはれなるをよみて
まねをうけてあはれ

松

松わく松杖をもえおぼやかしき松なるをよみて
おぼやかしき松なるをよみてあはれなるをよみて
ちりやう松をよみてあはれなるをよみて
よよよ松なるをよみてあはれなるをよみて
まきの遠山松をよみてあはれなるをよみて
まねの松をよみてあはれなるをよみて
松なるをよみてあはれなるをよみて

山嶺松

山嶺松なるをよみてあはれなるをよみて
白き松なるをよみてあはれなるをよみて

固松

固松なるをよみてあはれなるをよみて
大井松なるをよみてあはれなるをよみて

水辺松

水辺松なるをよみてあはれなるをよみて
やあな松なるをよみてあはれなるをよみて

名所松

名所松なるをよみてあはれなるをよみて
まの松なるをよみてあはれなるをよみて

暖峯松

暖峯松なるをよみてあはれなるをよみて
らぬ松なるをよみてあはれなるをよみて

曾根松

曾根松なるをよみてあはれなるをよみて
あはれ松なるをよみてあはれなるをよみて

産多松

産多松なるをよみてあはれなるをよみて
とく松なるをよみてあはれなるをよみて

小松

小松なるをよみてあはれなるをよみて
小松なるをよみてあはれなるをよみて

層松あゆこ〜

かきつばたの枝を挿して松を挿してはれ 氏子
昔ながらの松を挿してはれ 氏子の松を挿してはれ
の松を挿してはれ 氏子の松を挿してはれ
かきつばたの枝を挿してはれ 氏子の松を挿してはれ

かきつばたの枝を挿してはれ 氏子の松を挿してはれ
かきつばたの枝を挿してはれ 氏子の松を挿してはれ

松と竹とを挿してはれ 氏子の松を挿してはれ
松と竹とを挿してはれ 氏子の松を挿してはれ

竹
松と竹とを挿してはれ 氏子の松を挿してはれ
松と竹とを挿してはれ 氏子の松を挿してはれ

かきつばたの枝を挿してはれ 氏子の松を挿してはれ
かきつばたの枝を挿してはれ 氏子の松を挿してはれ

里竹
かきつばたの枝を挿してはれ 氏子の松を挿してはれ
かきつばたの枝を挿してはれ 氏子の松を挿してはれ

柳下竹
かきつばたの枝を挿してはれ 氏子の松を挿してはれ
かきつばたの枝を挿してはれ 氏子の松を挿してはれ

道下竹
かきつばたの枝を挿してはれ 氏子の松を挿してはれ
かきつばたの枝を挿してはれ 氏子の松を挿してはれ

庭の松と竹とを挿してはれ 氏子の松を挿してはれ

竹の松と竹とを挿してはれ 氏子の松を挿してはれ

竹の松と竹とを挿してはれ 氏子の松を挿してはれ

かきつばたの枝を挿してはれ 氏子の松を挿してはれ
かきつばたの枝を挿してはれ 氏子の松を挿してはれ

れぬの ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり

月せ物くへはきよはのこころ

ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり

大むすのこころ生田のこころ

ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり

ちげの ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり

ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり

ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり

ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり

ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり

ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり

帯本	ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり	氏子
うらみ	ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり	氏子
わらわ	ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり	杖成
あふひ	ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり	
ひて	ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり	千佳
あ	ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり	幸彦
梅ひめ	ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり	子平
ほのろ	ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり	左衛
繪	ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり ねむり	高左

山水画

かゝるのしづかき

あつる人よ山水力なきをばうりて
宣長

福祿寿の回天さまふさふさ
生蹟

天の糸うらひえつちしづかき
土波

布袋わち月を指させり
久光

たけのこのこ

軍人あまのこ
春郷

体投之身様を割て
杖成

牛若丸
杖成

田圃の
杖成

作人形
杖成

女うめしりる水甚ゆめいそい

かきあつたのたはるるうりあはれはくさくさなる
宣七

机傍に化してわらふたふら

かきあつたのたはるるうりあはれはくさくさなる
菅原

増年を

かきあつたのたはるるうりあはれはくさくさなる
枝直

人のあはれよとてうめいそ

かきあつたのたはるるうりあはれはくさくさなる
氏子

解ぬを

かきあつたのたはるるうりあはれはくさくさなる
直七

かきあつたのたはるるうりあはれはくさくさなる

冠

かきあつたのたはるるうりあはれはくさくさなる
十後

弓

かきあつたのたはるるうりあはれはくさくさなる
吉田

矢

かきあつたのたはるるうりあはれはくさくさなる
吉田

琴

かきあつたのたはるるうりあはれはくさくさなる
吉田

笛

かきあつたのたはるるうりあはれはくさくさなる
吉田

かきあつたのたはるるうりあはれはくさくさなる
吉田

佳茗似佳人といふ言

すけいしほしよとよまぬ人しほひのこしけいあぬちと友 杖成

つよまをいあうてあましういふたふちよめ

あぐくも春のあぢきまを揚てあぐくんり枝の水よすけ

ち也寺のほけの神備といふ茶葉をわうてけいしほよ

そのあうまあゝぬをけのほよほいこまに神乃皮とけい

笈 笈 ほうのねんく様あわわあまかまは揚てけいしほよ 千石

龍 かくれい飲の水をけいしほよてあめいふいふつてあやよ

けいしほよあうあまよあまよあまのほよあうあうてけい

鶴 ねいよあうあうあまよあまのほよあうあうてけい

けいしほよあうあまよあまのほよあうあうてけい

名取鶴 けいしほよあうあまよあまのほよあうあうてけい

鶴と海 けいしほよあうあまよあまのほよあうあうてけい

鷺 けいしほよあうあまよあまのほよあうあうてけい

路馬 けいしほよあうあまよあまのほよあうあうてけい

川中鷺 けいしほよあうあまよあまのほよあうあうてけい

鳩 けいしほよあうあまよあまのほよあうあうてけい

雀 けいしほよあうあまよあまのほよあうあうてけい

二つしほけの茶乃わいしほよあまのほよあうあうてけい

鳩

鳩やかたしな波のこもあつらふつらふをせのちび
東海

鶴鶴ろくろあきき

いふのちあつらふはつらふもあつらふはつらふをせ
杖成

鷹の巖よりあつらふ

空ふらまきしつらふはつらふはつらふをせ
杖成

以鳥

いふよつらふはつらふはつらふをせ
民子

おつらふはつらふはつらふをせ
杖成

松木の枝よりあつらふ鳥のあつらふはつらふをせ

いふよつらふはつらふはつらふをせ
宣長

いふよつらふはつらふはつらふをせ
千度

席

世中を何よつらふはつらふをせ
成事

猪

まけあつらふはつらふはつらふをせ
季磨

あつらふはつらふはつらふをせ
吉海

丈夫やまつらふはつらふをせ
千度

いふよつらふはつらふはつらふをせ
春海

いふよつらふはつらふはつらふをせ
東海

いふよつらふはつらふはつらふをせ
杖成

いふよつらふはつらふはつらふをせ
杖成

いふよつらふはつらふはつらふをせ
杖成

いふよつらふはつらふはつらふをせ
杖成

いふよつらふはつらふはつらふをせ
杖成

いふよつらふはつらふはつらふをせ
杖成

馬 熊 犬 猫 蜘蛛

いふよつらふはつらふはつらふをせ
東海

鯨 相浦の如く鯨乃をいふ天海より八重のほろ
 緑毛亀 赤坂のたふし衣の位おはして地の名をさし
 聖人 今をまじふ地もあはれん津波の川にさし
 將軍 弓矢のまじあはれんあはれんあはれん
 韓使とつとつと

左海のうら高松のさきさきあはれんあはれん
 波海へつとつとあはれんあはれんあはれん
 舟 舟のちからあはれんあはれんあはれん
 翁 さきさきあはれんあはれんあはれん
 ねじれ さきさきあはれんあはれんあはれん
 妓女 さきさきあはれんあはれんあはれん

つらめ さきさきあはれんあはれんあはれん
 さきさきあはれんあはれんあはれん
 さきさきあはれんあはれんあはれん

岸頭 傀儡 限時百詠の中又肖面美人
 さきさきあはれんあはれんあはれん
 さきさきあはれんあはれんあはれん

西施 望夫石 巫山高
 さきさきあはれんあはれんあはれん
 さきさきあはれんあはれんあはれん
 さきさきあはれんあはれんあはれん

多

あつたのいふことばのいふことばに
人とはよくいふことばのいふことばに

春阿

皇都

神さうさうさうさうさうさうさう
限りし海の中は洛陽道

秋成

限りし海の中は洛陽道

長安道

あつたのいふことばのいふことばに
うさ山はさうさうさうさうさうさう

成春

舊都

あつたのいふことばのいふことばに
あつたのいふことばのいふことばに
あつたのいふことばのいふことばに
あつたのいふことばのいふことばに
あつたのいふことばのいふことばに

契神

古寺

あつたのいふことばのいふことばに
あつたのいふことばのいふことばに

十法

寺院

あつたのいふことばのいふことばに
あつたのいふことばのいふことばに

馬馬

古寺

あつたのいふことばのいふことばに
あつたのいふことばのいふことばに

氏子

古寺

あつたのいふことばのいふことばに
あつたのいふことばのいふことばに

高岡

僧侶

あつたのいふことばのいふことばに
あつたのいふことばのいふことばに

十法

宿山寺

あつたのいふことばのいふことばに
あつたのいふことばのいふことばに

成春

菅笠田の申

名をいふは菅笠田の申すは今日も

鐘

山に鐘をたたくは川のせせらびに似たり

入水の音もたたくは鐘の音に似たり

はるのゆくもたたくは鐘の音に似たり

僧

あはれゆくもたたくは鐘の音に似たり

木の葉もたたくは鐘の音に似たり

児の髪もたたくは鐘の音に似たり

凡そたたくは鐘の音に似たり

たたくは鐘の音に似たり

あはれゆくもたたくは鐘の音に似たり

ておるもたたくは鐘の音に似たり

大の川もたたくは鐘の音に似たり

十二月の月もたたくは鐘の音に似たり

うらみもたたくは鐘の音に似たり

おはれゆくもたたくは鐘の音に似たり

おのれもたたくは鐘の音に似たり

あはれゆくもたたくは鐘の音に似たり

あはれゆくもたたくは鐘の音に似たり

あはれゆくもたたくは鐘の音に似たり

あはれゆくもたたくは鐘の音に似たり

あはれゆくもたたくは鐘の音に似たり

新子母のうら

あはれなるこころのうらみはなほあはれなるこころのうらみ

菫相如のうらみ

あはれなるこころのうらみはなほあはれなるこころのうらみ

許由のうらみ

あはれなるこころのうらみはなほあはれなるこころのうらみ

あはれなるこころのうらみ

あはれなるこころのうらみはなほあはれなるこころのうらみ

あはれなるこころのうらみ

あはれなるこころのうらみ

あはれなるこころのうらみはなほあはれなるこころのうらみ

あはれなるこころのうらみ

あはれなるこころのうらみ

あはれなるこころのうらみはなほあはれなるこころのうらみ

あはれなるこころのうらみ

あはれなるこころのうらみ

あはれなるこころのうらみはなほあはれなるこころのうらみ

あはれなるこころのうらみ

あはれなるこころのうらみはなほあはれなるこころのうらみ

あはれなるこころのうらみ

あはれなるこころのうらみ

あはれなるこころのうらみ

おしよのせいのとくしよのりあつてはあつていふこと
世のゆきありてゆくはあつていふこと
おしよのせいのとくしよのりあつてはあつていふこと
おしよのせいのとくしよのりあつてはあつていふこと
おしよのせいのとくしよのりあつてはあつていふこと
おしよのせいのとくしよのりあつてはあつていふこと
おしよのせいのとくしよのりあつてはあつていふこと
おしよのせいのとくしよのりあつてはあつていふこと
おしよのせいのとくしよのりあつてはあつていふこと
おしよのせいのとくしよのりあつてはあつていふこと

契仲

五梅

吉岡

成子

土波

季鷹

千住

獨述情

おしよのせいのとくしよのりあつてはあつていふこと
おしよのせいのとくしよのりあつてはあつていふこと
おしよのせいのとくしよのりあつてはあつていふこと
おしよのせいのとくしよのりあつてはあつていふこと
おしよのせいのとくしよのりあつてはあつていふこと
おしよのせいのとくしよのりあつてはあつていふこと
おしよのせいのとくしよのりあつてはあつていふこと
おしよのせいのとくしよのりあつてはあつていふこと
おしよのせいのとくしよのりあつてはあつていふこと
おしよのせいのとくしよのりあつてはあつていふこと

枝直

氏子

久光

枝直

宣長

菅原

老述情

月影
老
老
老
老
老
老
老
老
老

老

契仲は所いせよとけしむるをいふにむらうしむるにむらうて
うとせしむるをいふにむらう

あやせのちおちけしむるにむらうしむるにむらうて
あやせのちおちけしむるにむらうしむるにむらうて

色思信正九百の思もいふにむらうしむるにむらうて
色思信正九百の思もいふにむらうしむるにむらうて

釈教 未由あり
いづれは佛の位山すもいふにむらうしむるにむらうて
いづれは佛の位山すもいふにむらうしむるにむらうて

あやせのちおちけしむるにむらうしむるにむらうて
あやせのちおちけしむるにむらうしむるにむらうて

契仲の思ふにむらうしむるにむらうて
契仲の思ふにむらうしむるにむらうて

菩提心論 衆生愚昧不可強度のうらうら
菩提心論 衆生愚昧不可強度のうらうら

自愛の觀せ音入は 泉怨悉退散のうら
自愛の觀せ音入は 泉怨悉退散のうら

涅槃 春をうらむるにむらうしむるにむらうて
涅槃 春をうらむるにむらうしむるにむらうて

灌佛 仏の思ふにむらうしむるにむらうて
灌佛 仏の思ふにむらうしむるにむらうて

神祇

うわさまでまつりまつりわらわら神代のはらへをまつれ 春原
春をまつり人の神代まつり人のまつりまつりまつりまつりまつり 十原
まつりまつりまつりまつりまつりまつりまつりまつりまつりまつり

信のえり社まつり

あつまつりまつりまつりまつりまつりまつりまつりまつりまつり 久光

上賀茂 まつりまつりまつりまつりまつりまつりまつりまつりまつり 宣七

下鴨 まつりまつりまつりまつりまつりまつりまつりまつりまつり 子彦

伊勢 まつりまつりまつりまつりまつりまつりまつりまつりまつり 子彦

山まつりまつりまつり

まつりまつりまつりまつりまつりまつりまつりまつりまつり 宣七

まつりまつりまつりまつりまつりまつりまつりまつりまつり

人麿のまつり

まつりまつりまつりまつりまつりまつりまつりまつりまつり 久光

神本人麿大人のまつり

まつりまつりまつりまつりまつりまつりまつりまつりまつり 在保

まつりまつりまつりまつりまつりまつりまつりまつりまつり 宣七

菅原のまつり

まつりまつりまつりまつりまつりまつりまつりまつりまつり

まつりまつりまつりまつりまつりまつりまつりまつりまつり

まつりまつりまつりまつりまつりまつりまつりまつりまつり

まつりまつりまつりまつりまつりまつりまつりまつりまつり まつり

まつりまつりまつりまつりまつりまつりまつりまつりまつり

汗代のこゝろ

かゝる汗代の事もなきはかたき天のけしき 十位

社既曉 許さして心とあはれしきようは枝るれあつたの何よ 枝互

社既月 位のえちねのよま月おはらばはま思ふあはれなく 久光

社既祝 大君とらしてはねてはのすけをさへあつたや 幸海

社既 いらぬもはかしの松もいかにまきまよはぬ枝の松

社既 けうえをせもあつたを新きさうらけあつたのまねた 枝互

祝 けうらぬのさうらぬもあつたはかしのまねた

わ國にまきまよはぬのまねたはかしのまねた 幸海

大出にまきまよはぬのまねたはかしのまねた 千位

あつたはかしのまねたはかしのまねたはかしのまねた 幸海

あつたはかしのまねたはかしのまねた

十位にまきまよはぬのまねたはかしのまねた 幸海

人のあつたはかしのまねた

あつたはかしのまねたはかしのまねたはかしのまねた 幸海

枝互に七十のまねたはかしのまねたはかしのまねた

あつたはかしのまねたはかしのまねたはかしのまねた 幸海

枝の子にまねたはかしのまねたはかしのまねた

あつたはかしのまねたはかしのまねたはかしのまねた

あつたはかしのまねたはかしのまねたはかしのまねた 幸海

あつたはかしのまねたはかしのまねたはかしのまねた

あつたはかしのまねたはかしのまねたはかしのまねた 幸海

夏祝 松も牛も花もあひついでわささゆくはなよるを
氏子 春のたかきうえは海を干る松のうらや風雲の霞のよも 東海

よー田のあか母と一れはちよれの祝を

秋葉祝 月月のうらくもくを穂てはくは秋をあらはらさ
氏子

人のあやの海風は松舟あななよちかきつるよ

松もえも竹もあはれはあはれよ世もあはれもあはれ
吉岡

人こいともあはれはあはれはあはれ

松もえも竹もあはれはあはれはあはれはあはれ
吉岡

松直色 松もえも竹もあはれはあはれはあはれはあはれ
吉岡

秋松祝 松もえも竹もあはれはあはれはあはれはあはれ
吉岡

人のあやの海風は松舟あななよちかきつるよ

松もえも竹もあはれはあはれはあはれはあはれ

久光社まきのあやの竹不改色

松もえも竹もあはれはあはれはあはれはあはれ
十位

あつのもちきうはまろ人をねひらろは作はあはれ

松もえも竹もあはれはあはれはあはれはあはれ
吉岡

平まろの父のあやの竹不改色

松もえも竹もあはれはあはれはあはれはあはれ

あつのもちきうはまろ人をねひらろは作はあはれ

松もえも竹もあはれはあはれはあはれはあはれ
吉岡

秋鶴祝 松もえも竹もあはれはあはれはあはれはあはれ
吉岡

去時祝 けりてはほつらふれしよきもせよ下はくすう群 氏子
鶴軒 けりてはほつらふれしよきもせよ下はくすう群 氏子

出のよふねせしつらぬあそびま

出のよふねせしつらぬあそびま 子屋
人の父たほつらぬあそびま

人の父たほつらぬあそびま 宣也
人の子たほつらぬあそびま 宣也

人の子たほつらぬあそびま 宣也
人の父たほつらぬあそびま 宣也

山人の御乃志まのつらぬあそびま 吉岡
よせの段のつらぬあそびま 枝直

去日祝 あえまをそをそめつらぬあそびま 宣長

去月祝 ちよとつらぬあそびま 枝直

去世祝 ちよとつらぬあそびま 枝直

去都祝 ちよとつらぬあそびま 千後

去道祝 ちよとつらぬあそびま 千後

去今祝 ちよとつらぬあそびま 氏子

去今祝 ちよとつらぬあそびま

去神祝 ちよとつらぬあそびま 季鷹

日ぬるね乃道と天つ社とつらぬあそびま

Handwritten text in cursive script, likely a dedication or preface, located on the right page of the book.

浪華書林

文化九年壬申冬十一月

本町二丁目

浪華書林 奈良屋長兵衛

